

翻刻『大坂御加番御徒目付役諸事勤方帳』

大阪府立中之島図書館

小笠原 弘之 八木 美恵

大阪府立中央図書館

北川 敬子 苗村 昌世 日置 将之

山田 瑞穂 佐藤 敏江

はじめに

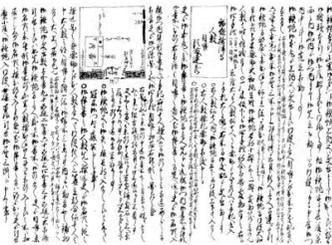
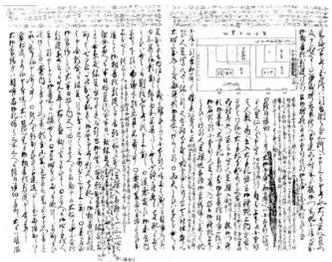
『大坂御加番御徒目付役諸事勤方帳』 須藤正峯著 四九八・一三六

嘉永五年二月〜翌年八月にかけて、大坂城山里丸御加番を勤めた鳥羽藩主稲垣撰津守長明の家臣須藤正峯（御徒目付）による事務控。

『大坂上町組御宿控』 文書二七〇

天保八年の大塩の乱により大坂三郷の五分の一が焼失した。本資料は、一年後の天保九年に、天保の乱で焼失した町に替り、御番衆のための宿を依頼された町名と、その対応のための手順を記したもの。

〈大坂御加番御徒目付役諸事勤方帳〉



〈大坂上町組御宿控〉



凡例

底本に忠実を旨としたが、通読の便を考慮し、句読点、帰り点等は適宜これを施した
異体字は通行の字体に改めた

判読出来ない文字は□で、確定できない文字については（カ）を付して表示した
書き間違いと思われる部分については（ママ）を付して表記した

訂正の部分は取り消し線を引き、加筆部分は青字で、欄外の書き込みは朱字で表示した

大坂御加番御徒目付役諸事勤方帳

嘉永五壬子年

大坂

御徒目付役諸事勤方帳

御加番

二月方 須藤正峯控

御役之覺

一御家老 稻垣九郎兵衛 右御同人病氣帰足に付代 稻垣六郎右衛門

一御用方 稻垣源右衛門 一御目付者頭兼 稻垣直左衛門

門野豊右衛門

一御米方 大須賀小左衛門 一御破損方 大川與左衛門

朝比奈十郎左衛門 下村右狩

一御鉄砲方 鈴木 央 一御納戸 山田 實

遠藤三左衛門 稻垣 東

一御用御取次 稻垣要人 一御供頭 稻垣要人

但大坂に而被_レ仰付_一 稻垣左門

左門帰足に付代

山本 栄

山本 栄

水野直三

○御逢之儀御在坂中に 一御左り 山本 栄
五六度罷出候様被_レ仰出_一候 猶繁勤之御場所故老入 栄代 稻垣 信(カ)

先罷出候様御沙汰候事 一押 鈴木新兵衛 吉村吉之助

十一月五月卜両度兩人ツ、罷出候事 木村銀之助 植木豊作

○御家老へ御用伺一二ヶ月置に罷出候事 豊作 病氣 木村鎌二郎
帰足に付代話

○町廻り度と罷出候事

一二月十日去二日 殿様大坂御加番被_レ蒙_レ仰候。御差込着

一同日夕、江戸表方御足輕兩人御奉書持参。道中九日切に而着有_レ之。峠御門迄當方御足輕迎に罷出、御廣間給人中取次御席江被_レ上候事。若夜に入候は、御門と開門提灯付候様者頭中

方夫と御門と江達有之候趣、右同役に而者構無之候得とも承分迄達候旨被_二仰聞_一候事
一同十二日、前日惣触有_レ之。去二日 御奉書當秋大坂御加番大久保佐渡守様御代被_レ蒙_レ仰
候に付、四ツ時平服に而一統登 城御祝儀有_レ之候事

一御發駕御書付に而左之通被_二仰出_一候事

當秋大坂御加番被_レ蒙_レ仰候付、来月十三日御發駕被_レ遊御参府候事 閏二月十一日

一角熊文内、遠藤喜四郎、須藤連藏當秋大坂御加番之節御供詰被_二仰付_一候段、於_二二ノ丸_一弥
次右衛門殿被_二仰達_一候事。右に付両御支配宅御受到罷越候事

附り右御受は御月番計に而宜候処、少と行違也 右三月十日

一此節同役名順連藏、文内、喜四郎、嘉藏、鉄藏、吉之丞也。但吉之丞未江戸詰不_レ致候へ共、
此度之大坂詰は、江戸詰口に不_レ拘名順に被_二仰付_一候事。尤弘化度も右之通に御座候事

一稲垣直左衛門殿同様被_二仰付_一、猶又者頭加人被_二仰付_一候旨同日達有_レ之。右に付詰三人之
者一緒に翌十一日祝儀且頼旁宅江参、面會之上申述候事

一御發駕前日御機嫌伺、後支配方_レ達有_レ之。御書院江御徒士格以上列座、御前出御御加番
に付而之 御意并御供之九郎兵衛殿_レ被_二仰渡_一有_レ之。又御用部屋御條目續之畢而御留主居
残之者へ 御意并頼母殿_レ被_二仰渡_一有_レ之。右御書付類者頭并大川与左衛門殿江被_二相渡_一、夫
方御前入御一統溜とへ引取、其上に而溜とに而拝見仕候事。御受御席両支配宅江罷越ス。餘者
日記に有_レ之 ○右御事付類拝見仕候而已に而、追而は出不_レ申候。依而御支配に借用致_レ
被_二仰出帳江留置申候。尤御留守之方は不_レ留候事 右三月十二日

一稲垣九郎兵衛殿大坂御加番御供詰被_二仰付_一候段達有_レ之。併而銘と祝義罷越申候事

右三月九日

一御取扱向弘化度之通被_二下置_一候段、直左衛門殿_レ被_二仰達_一候、右に付三人共両御支配宅へ
御礼に罷越候事 右五月十一日

一御判金并二夕詰日に付先例之通耆兩ツ、拝借被_二仰付_一候様、右三人共一緒に嘉藏相頼願貫
申候事。但何レも口上願也 右六月二日

一御判金願通被_二仰付_一候段達有_レ之。両支配宅江御礼に罷越ス。且二度め詰拝借者別と達無_レ
之候事 右六月十日

一御小屋割被_二差出_一候。且御組目付此度は耆人に付、各方先年与は御繰合に而相違致候間承
分迄申達候旨被_二仰聞_一候事 右六月十日

一大坂御供詰に付、三人共神文被_二仰付_一候旨、弥次右衛門殿_レ達有_レ之、御受御同人江申上
即御同人宅に而仕候。相濟御礼両御支配宅江申上。但直左衛門殿月番成共大坂詰故、弥次右

衛門殿取計与相見申候事 右六月十二日

一三人之者桐油合羽注文書直左衛門殿江差出、猶又御貸人老人ツ、被_二仰付_一被_レカ_レ下候様是又御同人江申上候事 右同月廿八日

一印形取之儀御納戸御小屋詰之節は不_レ及_レ取、部屋に罷居候節計取可_レ申。又左門義九郎兵衛殿与相宿に候_レ共、取可_レ申旨直左衛門殿方達有_レ之

一御旅館方京橋口迄之御行列帳に、自分義箱提灯之印付有_レ之候に付、勘右衛門に聞合候処、弓張提灯相用、箱提灯者三人共持参不_レ仕候段、且御行列揃候に手提灯に無_レ之而は不_レ弁利に御座候旨申聞候間、右之趣直左衛門殿江申上候処、先年も左様候へは如何様手提灯に而可_レ然旨被_二仰聞_一即弓張提灯計致_二持参_一候事 右二ヶ条六月廿八日

一九郎兵衛殿御不快に付御道中御供御免稲垣六郎右衛門殿立帰被_二仰付_一候。尤御全快次第御出坂可_レ有_レ之旨被_二仰達_一候事 右七月五日

一御武器廿二日立卜御書付に有_レ之候処、右者書損に而廿三日立に候間、左様相心得候様直左衛門殿被_二仰聞_一候事 右 七 月 十 八 日

一御武器懸改に付、弘化度は勘右衛門不_二罷出_一候趣に候_レ共、此度は拙者者頭心得に而参候間、自分にも罷出候様直左衛門殿被_二仰聞_一即御本城へ罷出、懸廻立會致候。委細は直左衛門殿被_レ下候別帳に有_レ之。右御武器廿二日御本城方下會所江下ヶ置候間、右方廿三日に被_二差立_一候段被_二仰聞_一候。又人馬共自分義構無_レ之、拂方木村八三郎并御賄下役北川元治取計申候事 右七月十九日

一詰三人之者江咄之義も有_レ之候間、今夕拙宅へ被_レ参候様直左衛門殿被_二仰聞_一即三人共罷越候。又小頭録蔵、御組目付八右衛門も参候。少と御咄之義有_レ之。録蔵は被_レ帰、三人与八右衛門へ酒被_レ出候。五ツ過帰申候事 右七月十九日

一廿四日立之面とは六郎右衛門殿御引纏之訳に候間、右に被_二相心得_一、尤朝熊村に而御待合可_レ申問合之向も有_レ之候は、右に申通候様直左衛門殿被_二仰聞_一候事

一喜四郎儀、人数繰出之節目明相勤候様被_レ仰出帳に有_レ之候_レ共、御供に而御城入致候_レは、未荷持取入に不_二相成_一、積間に合不_レ申。依而難_レ勤旨申上候処、最早御届に相成、只今繰替難_二出来_一候間、都合致相勤候様被_二仰聞_一、右者分合違之事成共外と之儀与は違_レ候事故、立付供人に為_二持参_一相勤候様可_レ致与申合候事

一其許喜四郎御殿(カ)小屋住居之处、山里丸印形取之儀に付、喜四郎繰上、文内同居に被_二仰付_一候。依而下小屋其許老人に相成候に付、泊之義者御用捨被_二仰付_一候段、直左衛門殿被_二仰聞_一候事 右七月廿二日

一銘と勤向被仰出帳に而承分仕、別段御受等不_二申上_一相勤候事

一御先荷并船荷持出触有_レ之、銘と勝手次第差出候事

一火事羽織持参并陣笠手鷲持参心得之事

一為_二御先用_一御奉行朝比奈十郎郎左衛門殿御吟味役、御買物方兼館野与兵衛、御勘定方小宮山利八上京、市大夫七月五日出立之事

一七月廿二日、明日御武器被_二差立_一自分附添に而出立に付、夕方御用伺可_レ参処、御寄合に而御退出遅く六ツ半時分御引有_レ之。夫方一二軒参豊右衛門殿へ参候処、昨廿一日方今朝迄大風雨に付宮川支候趣に付、明日出立之向者御差留に相成候段、尤御馬役多為_二水見_一被_二差遣_一候趣被_二仰聞_一候に付直様引取、直左衛門殿へ罷出伺候処、只今呼に遣候処也。明日之出立宮川支に付御差留に相成候。明朝否哉可_レ達旨被_二仰聞_一候事

但弘化度者 御在城に付、勘右衛門御武器附添に而出立、前夕御納戸迄御機嫌伺に罷出候処、御納戸範三殿暫御扣被_レ下候様被_二申聞_一扣居候処、只今お前御入湯被_レ遊候間 御逢不_レ被_レ遊候。外に御用等も無_二御座_一候様範三殿被_二申聞_一候に付、引退候趣也。當年は江戸方御立に而御留守也

一同廿三日天キ、早朝に直左衛門殿を今朝辰ノ刻宮川明候趣に付、支度次第出立致候様被_二仰聞_一候。然処五ツ時分方御寄合之趣に付、五ツ時過_二之丸江罷出御年寄、御用人両御支配江御用伺申上引取、其方仕度致九ツ前出立、拂方木村八三郎、才領木村吉之助同道に而下會所へ参、右に而何_レ方も引渡与申候事も無_レ之、小頭録藏罷出居世話致申候即御長持持左之通

一御武器長持 式棹 一御鉄砲長持 三棹 一御幕箱 老棹 一貝太鼓 老棹

一御矢箱 式荷 一御旗棹 老包 一御長柄 四包 外に御納戸長持 老棹

右御長持鍵二本直左衛門殿方自分江御渡し有_レ之。御着阪之上御同人江差上候事

○右迄人足持也

一御弓 式包 一桐油 老包 一合薬 老箱 〆右馬荷に而輕尻老疋也

但宮川支に而馬不_レ参 右も小俣村迄人足持出に相成申候事

一本町口御門開門大御門方罷出、自分義着流に而羽織着用に而出立。且供人老人召連候事
○何_レにも今晚松坂宿迄参候様被_二仰聞_一候事。但右人足并先触等自分構無_レ之、八三郎并御賄下役北川元治取計申候。弘化度は人足入込七ツ時に付御門断、勘右衛門方御支配江申上候趣。此度者右等之義も都而元治取計候旨同人申聞候事

一自分本馬老疋被_レ下、右代拂方八三郎方式貫七百十六文受取。尤荷物は御先荷へ差出、五昼食代上下式人分同人方受取供人之分は相渡す。又旅籠者自分上下共八三郎拂申候。伏見船

同断之事

一 門野豊右衛門殿四日市宿江御出迎に付今朝出立 ○小野沢卓之助御馬老疋率、是又今朝出立 ○御先荷も今日出立之処、馬不_レ參候に付人足持出に相成、亥刻出立に相成候趣之事 ○大雨に而道筋誠に大荒也

一 宿と本陣泊之事、松坂江子刻着 ○廿四日天キ関泊 ○廿五日天キ石部泊 ○廿六日天キ伏見着、御用達部屋江參来旅籠に而亥刻時分乗船ス。五十石船老艘借切之事。御先荷も始終一緒に參候。併船は別に老艘借切申候事 ○草津宿問屋に而大津宿迄矢場瀬之船に乗具候様、尤諸家様共左様に候段申一札差出相頼候趣、八三郎申聞即船に乗申候。尤着坂之上何_レも不_二申達_一候。弘化度も右之通之趣勘右衛門

方傳達有_レ之候。但人足賃錢并之通問屋拂申候。船は頼に依而乗候事故船賃者人足方出候様子、當方構無_レ之候事

附り大津方伏見迄之間、藪下之立場宮様御門前に相成心得可_レ有_レ之事

一同廿七日天氣、六ツ半過大坂江着船ス。八軒屋江政田屋権次郎手代出居、久宝寺町迄下ヶ候様申聞即、右之処江船着何_レも上陸、自分儀着流に而羽折着用ス。御長持は政田屋手代世話致し、御武器宿追手町灘屋源藏方庭江運入候に付、弘化度は土藏借入鍵ヲロシ置候段勘右衛門に承候間、其段御吟味役与兵衛并政田屋手代共懸合候得共早速不_二取極_一候間、先自分義十郎左衛門殿下宿參、只今着坂致候段申述、且御武器置所之儀申達候処、早速土藏借入候様可_二申付_一旨被_二仰聞_一候間、下宿割も出来に付自分義下宿へ引取罷在候。八三郎、吉之助も暫右に罷在候へ共程も不_レ分候に付、是又下宿へ引取申候。然処暮とに十郎左衛門殿方何_レ様にも右に被_二差置_一候趣、尤先年は彼_レ之処差支候に付、外土藏借受に相成候得共、此度は右之処へ差置可_レ申、又番等も不_レ付候間左様に致_二承分_一候様被_二仰聞_一候。但合薬は火之元之処も有_レ之に付政田屋土藏へ為_二入置_一申候事

一 御先荷持は銘と下宿ととへ政田屋人運入申候事

一 御本陣先達而借受有_レ之。御吟味役与兵衛昼夜相詰罷在候。鴻池より先例之趣に而左之通差出候趣也

一 懸物 式幅 一刀掛 一長熨斗 一硯箱

弘化度は勘右衛門早ク着坂致し居候故欵 右御本陣受取之節、小左衛門殿差圖に而罷出申候趣也

一同廿八日天キ、御本陣鏑御長柄十筋、并御玄関御床鏑御弓五挺、御鉄砲五挺、自分罷出差出、御吟味役江相渡ス。其外六郎右衛門殿、左門殿方預之品と夫と江相渡申候事

附り 御弩俵之義被_二仰出_一には無_レ之候へ共、御床もサムシク、且外様に者御矢箱、御玉箱等御差置之御家も有_レ之候間、右御差出之方宜様高木要助申聞、又皆とも右有_レ之方能相見江可_レ然様申候に付、十郎左衛門殿へ其段自分方伺候処、如何様被_二差置_一而可_レ然、若悪敷候は、直左衛門着之上直シ可_レ申旨被_二仰聞_一候間即飾置申候。且直左衛門殿着之上委細申上候処被_二仰出_一に無_レ之候へは、夫は如何に候哉。先明日如何様共可_二取計_一旨被_二仰聞_一候。然処始終其俣銚置有_レ之候事

一今日方御本陣内外共御武器其外共御銚付に相成候事

一同廿九日天夜 印形取連藏喜四郎泊り喜四郎殿様昨日御着坂。御日積之処今切大風雨に而渡海無_レ之。一日

御逗留に相成、今朝五ツ時過御機嫌能御着坂御本陣へ被_レ為_レ入候事

但文内御供喜四郎非番に而着之事。尤八軒屋御着船之節、御船場へ例之通踏込着用に而喜四郎罷出其積に而着也 ○伏見方大坂迄の御乗船へ文内御供に而乗候趣、弘化度は御

供船江弘人殿同役式人、御組目付与乗組候由、左候へは此度も御船江不_レ乘与宜御座候事

○木藤久左衛門閑宿迄御供立帰被_二仰付_一罷越候。猶又同所迄同役御供加人高森傳左衛門被_二仰付_一候事

一御着坂御祝儀六郎右衛門殿下宿へ一席老入ツ、罷越候事

但別段御支配方江者不_二申達_一候事

一御着坂之節、弘化度は御先用大須賀小左衛門殿差圖に而、勘右衛門八軒屋江罷出候趣、乍併是は出候に不_レ及候。非番之同役罷出致_二世話_一候事也。依而如何可_レ仕哉。十郎左衛門殿へ伺候処、被_レ出候に及間敷旨被_二仰聞_一候間、左様候は、御本陣へ罷出可_レ申旨申上候処、右に而宜段被_二仰聞_一候間御本陣へ罷出申候。十郎左衛門殿には礼服に而八軒屋へ被_レ参候。又御先用に参被_レ居候与兵衛、利八、市大夫何レも礼服に而御本陣へ罷出候に付承候処、御着之節 御目通江御出迎仕候段申聞候。自分義者左様之義は無_レ之事故平服に而罷出居、夫と御道具等之差圖致し居無_レ程下宿江引取申候事

附り 右八軒屋 先年は勘右衛門罷出候処、此度連藏義罷出不_レ申。右は如何に候哉与直左衛門殿方文内江八月十九日御尋に付、前文之通文内申上候趣、左様成者宜候得共先年は出候事故、御年寄中方御尋に而も有_レ之候節者如何与存相尋候趣被_二仰聞_一候由、文内申聞候事

一今日方同役御本陣江昼老入ツ、相詰吟味役詰所に罷居、尤弘化度は昼交代致、七ツ時分引、又御引ケ時分方泊に出候趣成共、此度者五ツ時分方出、昼引取、又昼過より出、七ツ時分引申候。泊之義は弘化度同様之事。但御奉行詰所江寝ル也 ○日と同様相詰候事

一 御旅館中絹布木綿服取受相用。但羽織袴勤之事

一 御人数改として、印形取之儀今晚方相勤毎夜取之。右改方之義、分而御達無之に付、弘化度之以例伺候処、其通に而宜候段直左衛門殿被_レ仰聞_一即、左之通相勤御役人者勿論御米方、御破損方、御鉄砲方并御近習、御納戸者御本陣詰に而代合之節は御用方江被_レ届候に付取形御用捨、御医師、御坊主は御本陣詰に而も取申候。其外_□介方以下御足輕迄御本陣詰に而も取形取申候。尤小頭方代役御足輕者別帳に而御組目付に為_レ取申候。右帳面差上候節者同役方一緒に差上申候。○此度者弘化度与は違、下宿と_と殊の外遠方に隔居候に付、帳面三冊に致し同役式人に而相勤申度、又堅帳成共御旅館中は日数少に付、横帳に致可_レ申旨直左衛門殿へ申上候処、右に而宜候段被_レ仰聞_一候。依而帳面致_二式帳_一東西与式人に而相勤即、六ツ過より御本陣へ罷出政田屋人老人ツ、案内に取、供人召連弓張提灯為_レ持羽織袴に而相勤候。但し刻限之儀は不定之事。猶又印形無_レ之者は其人方支配江届書判為_レ認申候。且引込に而も何_レも當人面會之上取候事

○翌朝御年寄、大目付へ口上に而相届ル。然処直左衛門殿方右改帳拙者江可_レ被_二差出_一、夫方御年寄中へ差上候様被_二仰聞_一候間、勘右衛門、安太夫扣に左様之義無_レ之旨申上候処、弘人扣には左様有_レ之候旨被_二仰聞_一候に付即直左衛門殿へ三帳今朝差上申候。尤御旅館中は日と被_二差出_一候義成共相替儀無_レ之候は、夫には不_レ及段被_二仰聞_一候に付、日と御届不_二申上_一候事。○右帳面儀并蠟燭御吟味役方受取帳面認方左之通り

嘉永五年
御旅館中
改帳
七月廿九日方

り通之左内

右名
御組日付へ名前認直ス

右名前日附共同役に而認

右三冊拵内巻冊

御組日付へ名前認直ス

一 晦日 天 印形取文内喜四 郎泊り連藏 大久保様衆方御頼に而、御交代之節御小屋荒候義も有_レ之候而は如何

に付、締旁其夜御足輕五人程大久保様御家来与成、夕刻方御城入為_レ致御小屋内江差置候様相成候間、右承分迄申達候旨直左衛門殿被_二仰聞_一候事

一 八月朔日雨 印形取連藏文内 泊り喜四郎 八朔御祝儀文内礼服に而、六郎右衛門殿下宿江以_二手札_一罷越候

○同役御本陣詰者平服之事

一 戸田淡路守様今朝御着坂有_レ之候事

一 同二日 天 印形取喜四郎連藏 泊り文内 今日仮御城入、明三日御交代御定日之処、御相番様方御道中御

逗留に而御着坂無^レ之、依而相延申候事

一御城内御繰込翌日昼迄焼出可^レ被^レ下^レ処、渡方も出来候付御繰込當日之昼迄焼出被^レ下^レ、其夕方銘々用意可^レ致旨直左衛門殿被^二仰聞^一候事

一下宿江為^二茶料^一式朱被^レ下候旨、御吟味役申聞相渡候。尤下宿へは銘々差遣候心得に而可^レ遣趣也。且別段支配方達無^レ之御札等不^二申上^一候事

一今日夜中大井大隅守様御着坂有^レ之候事

一同三日^天 印形取文内喜四郎
泊り連藏 今夜中永井若狭守様御着坂有^レ之候事

一同四日^天 文内連藏
喜四郎 明五日仮御城入之旨、直左衛門殿被^二仰聞^一候。猶又下宿々江右之

趣触込も有^レ之候事

一明五日御仮御城入に付、御供頭稻垣要人殿方明朝六ツ時過御提灯引御供揃之旨、尤御館^レ旅中之事故押付、只今触共不被^二差出^一候間、其刻不^レ遅様可^レ被^二罷出^一候。猶又御中小姓御徒士江は申通候得共、其以下之処各方方夫々へ不^レ遅様篤与申達可^レ被^二下旨被^二申聞^一即押へ其段委細申達置候事

一地廻り御供之竹之子笠、此度は未申達候へ共先年之例に而哉。御吟味 一 8
役にて調置相渡申候即御仮御城入之節方相用候事

一銘々荷物之義政田屋引受、御交代済直様御城内へ繰入申候。右人足に上方腰札相渡り、又下宿々へ政田屋方印鑑相渡置、人足江も為^レ持右引合数も引合宿方相渡候様政田屋手代申聞候。依而政田屋方荷物数承に参書取申候。又宿へも此方方荷物数書付遣置申候事

一同五日^曇 曇後
泊に
天 今朝御仮御城入に付、御四手様當御本陣へ御揃に而、六ツ半時分御一緒に被^レ遊^二御出^一候。四ツ半時分御下り、夫方両町御奉行御勤、九ツ時前御帰館被^レ遊候事。右御供御先八人之内御人不足に付、同役兩人に被^二仰付^一、文内喜四郎相勤候様被^二仰聞^一即兩人相勤。但御先一統麻振子羽織着用申候。尤本股立也。○為^二御案内^一御先立老人有^レ之。大手御門方御城入被^レ遊候。右土橋石段前にて御先落。○旗(カ)頭願に而羽折供仕候事

附り 弘化度には御先右土橋石段少々上り、旗(カ)頭招き候而下り候趣、跡に而御供頭まで御断申上候趣也

一御武器之儀、御仮御城入御留守之内に御本陣御書院江鋸附置、御城入之節是方繰出可^レ申候。右鋸付之節自分にも罷出候様、直左衛門殿被^二仰聞^一即罷出申候。小頭代役御足輕も出、且御長柄之穂一と紺糸に而留置、庭方御縁側之鴨居之上江穂先を入揃置、其外は御書院へ不^レ残鋸置申候事

一印形取之儀、弘化度には今晚御用捨、尤席々へ御達は無^レ之口傳也。此度者御達も無^レ之に付、

右之通可_レ致哉、直左衛門殿へ伺候処其通に而宜候段被_二仰聞_一候。依而印形取不_レ申候。尤席と御達は無_レ之候。右帳面三冊今朝直左衛門殿へ差上、御届申上候。六郎右衛門殿江も口上に而御届申上候事

一御城入之節、若雨天に而も御武器類桐油者不_二相用_一候。御人数も先雨具用申間敷候間、右に相心得可_レ申、尤京橋口迄は用而不_レ苦候。問合之向も有_レ之候は、右之趣申通候様直左衛門殿被_二仰聞_一候事

附り 右雨天之節は一統桐油相用、頭立候者は笠、草り、下駄着用申候趣、政田屋手代来助与申者御城入後申聞候事

一右同断之節、自分義笠相用候而も不_レ苦候哉、直左衛門殿へ相伺候処、用候而宜候段被_二仰聞_一候事

一御小屋請取御行列、明曉子ノ刻揃惣御行列、同巳ノ刻揃之旨直左衛門殿被_二仰達_一候処、其後老統子ノ刻揃之旨又候被_二仰達_一候事

但し一統子刻揃之旨下宿と惣触有_レ之候事

一御小屋受取御行列之内御番所受取之面と、御中小姓格迄裾細、其以下は立付之処、踏込御貸被_レ成候間、立付之心得に而着用可_レ致候。尤自身持参之者は、右相用候共勝手次第之旨、直左衛門殿被_二仰聞_一候事

一御城入之節 殿様御供之儀者御中小姓格以上裾細、同役并御徒士者ヂンノハシヲリに而御供可_レ仕旨直左衛門殿被_二仰聞_一候事

一同断惣御人数之義は御中小姓格以上裾細、其以下御徒士格迄は立付に而も、又半天、股引、割羽折に而も勝手次第着用可_レ致候。尤役付に而も同様、不_レ苦候旨直左衛門殿被_二仰達_一候事
一御繰込後、目明に罷出候節、立付之心得に而踏込相用候て不_レ苦候旨、御同人より被_二仰達_一候事

一右之通、同役何_レも踏込着用候而不_レ苦旨被_二仰聞_一候に付、自分義も御繰込之節踏込着用仕度段、直左衛門殿へ申上候処、如何様吟味格之御勘定方までも御貸踏込致_二着用_一候様相成候得者、立付の心得にて被_二相用_一候而不_レ苦候段被_二仰聞_一候事

一御城入早速諸帳面入用に付、半紙御吟味役方受取、御旅館に而左之通拵置申候 ○改帳上下に而三冊 但し
縦帳 ○御鑑札貸渡帳一冊 但し
同断 ○小札貸渡帳一冊 但し
同断 ○内御札場御鑑札書入帳一冊 但し
横帳 ○外御札場帳一冊 但し
同断 但し認方其所に記置候事

一御旅館中同役見計、下宿と其外忍廻致申候事。又遠廻り見計両度計致申候。尤弘化度は老度之趣に候共、御逗留長相成候に付右之通相勤申候事

一御繰込之節 殿様御供其外御小屋受取并惣御人数共ヒキハダ相用申候。又草り着用申候事
附り 格式以上之面と多分割羽織被_二相用_一申候事

一同六日^キ 老統子ノ刻御本陣江罷出_{但子ノ刻御本陣方} 無_レ程御小屋受取之面と行列に而繰出、
京橋迄罷越土橋向江揃置、文内与大和抱足輕小頭高木要助与兩人に而人数篤与調置、夫方要
助外張御番所へ参ル。其後京橋口土橋江人数繰上扣居候処、御番所方人參、前後方人数算立、
夫方繰込に相成候趣、右御門潜り方入候由、又高張御提灯者入不_レ申様候処、外様も入候様要
助申聞、其段豊右衛門殿へ申上即高張御提灯入申候而、東西両仕切御番所へ差置申候趣

○繰込直様被_二仰出_一候通、銘々御番所受取、御向番様衆与交代申候趣也 ○文内絹布羽織
踏込_{但し自身之}相用申候 着用供人老人召連申候事。其外傳左衛門、利八、専右衛門共御貸踏込着用申候
趣之事

一御武器御本陣方差出、行列相揃丑ノ刻過時分繰出 殿様にも御引續御行列に而御出有_レ之。
谷町通追手筋方罷出京橋外へ御行列三行に立置、委細繪圖面に有_レ之

御武器行列懸り三人に而能揃置
○御鑓印弘化度に一枝紛失甚御不
都合に付、此度は為_レ用意一行列懸り三人并小頭共三枝ツ、懐中致申候事 ○町御同心二度計人数改
に相廻、其節如何之人夫有_レ之候へは召取候趣、政田屋手代に承申候 ○右七ツ半時分也。暫相待申候 殿様に者御乘輿之俣

圖之処に暫御扣、日之出頃御下乗、京橋土橋前圖之所へ御床机に被_レ成_二御座_一、御馬印建_レ之
御附之面と御行列帳之通

罷在候。同役御供喜四郎相勤<sub>喜四郎服は帷子、麻振子羽折、脚半着、ズン／＼／＼シヨリに而御
供仕。御徒土同断。御中小姓格以上は裾細着用二而御供之事 其餘は繰下御行列内へ</sub>

立置。尤御馬印は御繰込前に下御行列内へ入申候<sub>京橋口御門開門同土橋両側大番
所脇迄与力鉄砲切火繩に而固居 為_レ暫大久保様御人数
繰出に相成、畢而大久保様御城出 殿様江御挨拶有_レ之<sub>勘右衛門留帳には御變受取渡御座候而、
御交代に相成候様有_レ之候共、右は如何哉 其後御</sub></sub>

使者有_レ之御供頭取次 御前御直に御面會有_レ之、夫方繰込候様御供頭江御沙汰有_レ之。御供
頭方喜四郎へ通達有_レ之。喜四郎方老番之御旗奉行小左衛門殿并大目付直左衛門殿、御年寄右
丈江申上、夫方圖之通御旗奉行方順と繰込申候。尤直左衛門殿、八右衛門、自分義御行列繰
出候頭之所に居而、夫と致_二差凶_一銘と御行列之場所参候節這り 御城入致申候。御人数不_レ
殘御城入相済引續 殿様にも御城入、京橋大御番所江御上り御定番両御目付御出番有_レ之間、
右江御挨拶有_レ之、夫方山里丸御小屋江被_レ為_レ入候事<sub>但し西仕切御門并山里
冠木御門片扉開有_レ之</sub> 自分義絹布羽織踏込着
用供人老人召連候事。由自分義立付之心得_レ而踏込用意無_レ之候御吟味役_レ而御賃踏込借用
申候事―但自分紋弓張提灯相用申候事

一殿様に者無_レ程御出有_レ之。御城代、両御定番、両大御番頭、両御目付、御相番様江御廻勤被_レ
遊候。御供連被_二仰出_一候通也。御供喜四郎相勤候事。

但何レも服者御城入之節与同服之事

一自分義は御繰込後、内御札場へ罷出御勘定所共と御鑑札并小札等取調申候事。委細は鑑札

賃渡帳等に有之候事

一 御番所と兼而被^二仰出^一候通、追々代合有^レ之申候事
 一人足繰出引續荷物取入に付、目明兼而被^二仰出^一候通、京橋御門江左之通り、轉、實、喜四郎
 罷出、初轉大番所へ断、夫方同人御門下へ出、喜四郎舛形御番所へ断、同所へ出、實外張御番所へ
 断、同所へ出、尤銘と以^二手札^一相断、枳形御番所方敷物出呉候に付、喜四郎右に着座致居候趣、
 人足繰出相済与直様荷物取入、右別段断無^レ之、其内交代出、尤先に手札差出有^レ之間、代合之
 者手札無^レ之口上に而、銘と其御番所ととへ断、各交代ス。又引取候者其御番所ととへ断、引取
 申候。荷物取入相済与、其段政田屋手代方申聞、夫方外張へ出居候職人引取与枳形御門下与順
 と一緒引取、其番所ととへ銘と断引申候事

手札

支配

こより

相渡ル

左之通

人数繰出	
荷持取入	目明兼帯
細垣探	津守内
御門下	小會根
外張	山田實
舛形	遠藤高四郎
	右代
	大須賀兎毛
	浮気儀人
	角熊文内

○文内引取御届三所へ申上候事

○文内喜四郎踏込着用にて相勤

供人老人ツゝ召連候事

但喜四郎義立付之心得にて踏込

用意無^レ之候付御吟味役に而御

貸踏込借用致候事

一 荷持取入後御家中荷持渡之節、同役罷出候様被^二仰出^一には有^レ之候へ共、世話敷候間不^二罷
 出^一候。御組目付罷出、夫と江相渡申候事

一 今夕御城入御祝儀直左衛門殿江文内方申上候事

一部屋と渡物左之通、鍋 釜 水桶 同荷桶 米入桶 盥 生板 包丁 柄杓 杓子 行燈

其外都而一色上方相渡申候事

一 御届三所与記有^レ之候は、御年寄御用方大目付之事也

一 勤順者何勤に不^レ寄遠口之者方相勤候事。都而木綿服にて勤ル。絹布着用之廉も有^レ之候は、

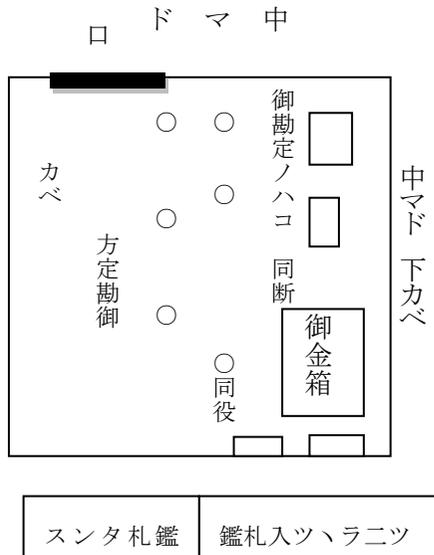
其所江記置申候事

一 供人召連候節は割場江申付候事

一 杖者何勤に出候とも、當方に而者為^レ持不^レ申候事

- 一 御小屋内夜分廻之儀心得可_レ有_レ之事
- 一 御小屋内薄羽織、平日勝手次第之事
- 一 内御札場与申は大目付御奉行中御勘定
所同役詰所之所_レフ言。図左之通り
- 右に而同役御鑑札取扱候事

此席へ出候奉行大目付御勘
定同役此口より出入致候事



- 一 雨天之節何_レ之御門に而も通行之節は傘ツボメ
出入致可_レ申事

○同役御用等に而出候節も
此席へ出候事

- 一 追手御門出入之節、鑑札御番所江為_レ見候者家来に相當り候者は相成不_レ申候。主人鑑札為_レ見可_レ申候。尤同道人に相當り候は_レ不_レ苦候事
○御城代之曆_レ方は若堂鑑札
出申候 其外は不_レ相成_レ候事 ○鑑札見せ候者御門
- 先江出入可_レ致候事 ○雨天之節傘指居鑑札見せ候而も不_レ苦候事 ○片手袖之内へ入居候
坎。又御番所前クリ石江上り候得者咎申候事 ○包物持参に而御門出入不_レ苦候事
○御中間町
人下駄不_レ相
成_レ候傘は
不_レ苦候事 ○上番之方へ鑑札見せ候事
- 一同役御城出公私共支配印鑑口上に而拝借、内札場に而鑑札与引替罷出候事 ○袴に而も

着流に而も不_レ苦候事。但他席之人与は一緒に不_レ参候事。同役に而は老人に而御城出不_レ苦候へ共 外向に而は御用出者宜候得共、私用出は不_レ相成_レ、依而誰と一緒に参候旨、御支配へ印鑑
拝借に参候節申込可_レ申候事

一同役町方廻之儀見計月老両度計ツ_レ罷出、袴に而も着流に而も不_レ苦候。老人出候而も、又
小番供に召連候共勝手次第之事。大目付御用出小札借受、内御札場に而鑑札与引替候事。前
後共何_レへも別段届等不_レ申上_レ候事

但朝方罷出候節は、要脚御吟味役方受取申候。尤大目付に而も要脚被_レ受取_レ候間、同役
に而も申合受取四十八文也。供人召連候は_レ、是又同様四十八文受取申候。且何_レへも不_レ

申達_レ受取候事

一 御年寄江御用何之儀隔月に罷出可_レ申事

一 御金箱封印、弘化度は大目付差合之節は、同役に而印形致候趣、又先に大目付

之封印形有_レ之節は、追而御同人江差返候趣之处當年は大目付印形無_レ之奉行中計之封印印形
に相成、依而同役構無_レ之、右之段別段達も無_レ之候事

一御小屋と壁江穴等明候儀 ○山里御門前之俗に姫門と言竹矢来御手前持には候へ共、右竹荒シ候儀 ○極楽橋其外御門と之銅釘拔落居候はゞ氣ヲ付取置、拙者迄可レ被レ遣候。左候へは内と取計方有レ之。右等之儀御破損奉行御廻之節、御目に當り候へは六ヶ敷趣、先役方申通有レ之候間、御役手に而は兼と御心得置被レ下候様大川与左衛門殿被レ申聞一候事 右八月八日一元日御礼御徒士格以上老統御書院江罷出 御通達 御目見仕候事。五節句は一席老人ツ、礼服に而御支配詰所へ罷出、銘と勝手次第見計候而御礼可二申上一候事。但朔望御礼無レ之候事。○正月十五日、弘化度には同役并御勘定方一席老人之御礼申上候趣に付、當年も右之心得に而喜四郎礼服に而詰所へ罷出候処、御役人方四ツ時方之御出仕直左衛門殿詰所江被レ參、段と被レ取調一候処、文政度にも申上候段、御勘定方日記に有レ之候得共、何レ之席に而も、御礼無レ之に付、直左衛門殿御年寄へ被レ伺候処、御内證向に而も御礼無レ之候間、御徒目付杯に而御礼有レ之候而は差障に相成候。席も有レ之間先年は兎も角も、此度は御礼申上候に不レ及。出仕不レ致積に而引取候様被レ仰聞一候間、左様相心得可レ申旨被レ仰聞一候に付、喜四郎御礼不レ申上引取申候事

一御手前御持場者東仕切、外御門臺之石垣通方西仕切、外四五間計先僅之石橋有レ之処迄御持場也。依而御持場内御先立等仕候様記有レ之。勤向は右迄相勤候事

一改印形取之儀、六日夜方相勤初に付、翌七日朝直左衛門殿江上へ下夕共相届帳面差出、六郎右衛門殿江は口上に而相替儀無レ之段相届、尤以後は相替儀無レ之候はゞ日と御届不レ申上一候段、御年寄大目付両方へ申上置候 ○月と朔日とに上へ下夕共帳面直左衛門殿へ懸二御目一、夫方御年寄江差上申候 ○勤方は御仕切後平服に而弓張提灯持相勤ル ○御年寄御用方三役三月付之面とは改無レ之。□介方御足輕并御小間遣利叔迄改申候。但印形無レ之者は其人方支配江届書判認申候。引込に而も何も當人面會之上取候事 ○御納戸は當番之者は取に不レ及部やに居候者計取候様、直左衛門殿被レ仰聞一候右九月朔日達 ○須藤仁八御組目付成共御賄下役相勤勤向違候事故印形取申候 ○八右衛門差支之節は御先拂等専蔵江被レ仰付一候趣達有レ之候へ共、加人与申にも無レ之神文も不レ致候事故印形取申候 ○月と帳面新夕に致候事半紙縦帳や、右紙并蠟燭御吟味役より受取帳面認方左之通

○右帳面上書江御小屋と之肩書致候様直左衛門殿被レ仰聞一候。先年は無レ之処、御達に付肩書致申候事 右は八月七日達

嘉永五壬子年
山里丸
改帳
八月

嘉永五壬子年
下両御小屋
改帳
八月

中 佐 通

八月 名前
六日〇七日〇

欄外

○京都神社江参詣相願参候者留主中は小書等も不_レ致日附ヲ相除候計に候事

○御組目付吉兵衛、直次郎御賄下役被_二仰付_一罷越候へ共、奉行中へ引渡にも不_二相成_一候間、改印形取候に不_レ及段、伺候処直左衛門殿被_二仰聞_一候。依而印形取不_レ申候事

○八月朔日夜迄印形取、二日夜は御用捨之事

右御沙汰無_レ之に付、先例申上中伺候処其通に而宜候段被_二仰聞_一候事

○七月中方八月朔日迄、改帳巻冊に而二日朝例之通差上申候事

○老人半枚に而一ヶ月分に致候。右同役に而相認、日と日附下へ印形可_レ為_レ致候。泊番に而も取、併御小屋違泊之節は不_レ被_レ取候間、日附下へ何_レ之泊番与認、又其御小屋内之者印形取可_レ申事 ○山里は文内、喜四郎取下、両御小屋者自分老人に而相勤候事 ○山里の方、初は御足軽立帰等有_レ之。人数多に付、小頭御足軽別帳に致し候。其段直左衛門殿へ御承分迄申上置、帰是有_レ之後巻統巻帳に致候事 ○右帳面追而相下り申候。左候へは同役貫置候事

○御旅館中改帳^{八月}_{七月} 直左衛門殿方被_二下ケ_一、右先年是如何相成候哉、御尋有_レ之。右者私ともへ被_レ下候に付其段申上候處、如何様左様に有_レ之候旨被_二仰聞_一候即貫置申候事 ○九郎兵衛殿御不快に而御引込御用之儀不_レ被_レ承候に付、右帳面御用方へ差上申候事。委細日記に有_レ之
○御中間改御組目付相勤候事

一殿様御城内御出之儀、前日惣触有_レ之。當日押付触并只今触共有_レ之。木綿服に而股立取_レ之、暑中タリ共麻振子羽織着用也。御徒士同断 ○御玄関前へ相揃、御供揃下供之義押方申聞、夫方例之通御供頭江達ス。御供之面と被_二仰出_一之通也 ○雨具持晴天には無_レ之、曇天に而は出ル。式人也。尤風呂敷包に而持。但し部屋と江集に参候。又御城代様江御出之節は下座敷晴雨共為_レ持候。持人老人也。依而晴雨共被_二仰出_一方者老人ツ、増候事。御供之竹之子笠、并下座敷上方相渡申候 ○御供頭方何_レへ御出候趣、且御相番様御一緒に御出之節は御月番様方へ御揃に而夫方御出有_レ之候間、其段申聞有_レ之。左候へは御徒士押御組目付へ申達候事

○御組目付御持場内御先拂有_レ之 ○御持場内御出入共同役御先立仕候事。譬御相番様方御

同道に而も同様相勤候事 ○始終 殿様之御跡方御供仕候事

御供立方 御御供頭 御中小姓 御徒目付 御鑓スソホ 御挟箱 押 雨天之節は
御左り 御長柄笠 御草り取 御挟箱 押 雨具持二人

左之通 御中小性 御徒士 御長柄笠 御草り取 御挟箱 押 □下座敷持一人

御相番様方其外様共御同道之節は、御供之面々向様江前後共平伏可仕事 ○何レに而も御

門前に而も同役方以下御供落候事。御本丸御出之節は、桜御門土橋前に而も同様御供落ス。尤雨

天之節は、御長柄傘并雨具持式人入候様被仰出に有之 ○外御門者勿論、御持場内御門

に而も闔方御通行被遊候事 仕切御門々々材木御引入に付片扉開有之。右大門ヲ殿様御通り有之候節は、御供方下供迄右御門通候而宜候旨御供頭方達し有之。但し此間中を通り申候事。右巳十一月 十二日達。右之通

有間氏留 雨天之節何レ之御門に而も御供方一統笠取候事 何レ之御門に而も御供頭驅被レ勤候事。但し御持場之外 ○御供持之節

地御役人様方迄御通之節は、御供下座可致事 ○御城代様へ御出御供待之節者、御鑓之穂先

ヲ御城代様御屋敷之方へ向、御本丸之方跡に致し可申候。外々是に順候事 ○御帰九ツ時過

候は、要脚出、御供頭方受取押渡ス。一統四十八文ツ、也 御城代様為二年賀御出有之。右為御挨拶御出候節四ツ時之御出触に而、九ツ時過只今触に而御出有

之。無程御掃り。右之節刻限。○正月廿四日千念寺へ御参詣之節、四ツ半過御出触に而其刻只今触、無程御出、御掃九ツ時過候に付、過に相成候趣に而も脚出申候。要脚之義御供頭へ承候処、四ツ半之御出触故早昼に而も出候而宜候間、要脚は不被下候段要人殿被申候事 ○出入共御届等無之直に引取申候事 ○御相番様御揃に而も御出之節は、是迄御月番

様御小屋へ御通り御待合に而、御揃之上御出有之候処、以後は御月番様御門前に而も御揃に相

成候様御申合に相成候間、御承分迄申置候様御供頭左門殿方被申聞候事 右九月五日

○九月十八日御城代様江御出有之 御供自分 雨天に付雨具持式人出、合羽籠一荷何レ方之差圖坎

持出候に付、左門殿右は不_二相成_一候段被_二申聞_一候。併御相番様方には合羽籠為_二御持_一に相

成候間、御手前に而も為_二御持_一に相成候而は如何御座候哉。与左門殿へ申達候処、御城内

中合羽籠は不_二相成_一候間、風呂敷包に而為_レ持候様被_二申聞_一、其段申付候処、桐油下座敷

式人に而は難_レ持旨申聞候間、其段左門殿へ申達候処、下座敷持別に老人差出、都合三人出

候様被_二申聞_一候に付、其段割場へ申付候処即三人出申候。右老人増候に付御吟味役江其次

第申 御城代様江以来御出之節は晴天に而も下座敷持老人、又雨天之節は三人差出候様懸

合置申候事。且後々は式人に而も右両様共持候義も有_レ之

○外様へ御出之節晴天に而、一統之草り持出候に付 九月廿一日御出之節 自分御供に罷出 左門殿に承候処、右は

老人も無_レ之段被_二申聞_一候に付、其段押へ篤与申達置候事 ○御組目付差支之節は御先拂

不_レ被_二差出_一候間、其心得に而も御先立致候様直左衛門殿被_二仰聞_一候事 右正月廿三日

一御月番者八月御手前九月二加番様与御名順に御勤之事

一御相番様方へ御口に御出有^レ之。御供帰之節御迎刻限御供頭より達し有^レ之。左候は、其刻何レも御玄関前へ相揃、夫方罷越候事

欄外

雨具為^二御持^一に相成候節は、外様御開も有^レ之候間、以後は合羽籠^二忝荷^一為^二御持^一相成候。尤下座敷右へ這り候は、入申持人に忝人為^レ出候而宜候段要人殿文内へ被^二申聞^一候。但晴天之節下座敷是迄之通風呂敷包に而為^二御持^一候事 右四月十五日

一殿様天王寺、建国寺、千念寺へ為^二御参詣^一御城出之節は、前日御城外へ御出之旨相触ル。當日只今触等例之通同役御供兩人也。忝人は殿様御供、忝人は御先出御人数引圓(マ)居出、御番所御断相勤、御徒士同役共木綿服^{暑寒共羽織袴股立也} 何レも御玄関前へ相揃、御供頭方御番所御断之手札四枚被^二相渡^一左之通り

雨天之節は

○御供頭方誰様御同道に而何レへ御参詣

十五人

之旨達有^レ之 ○御先出御人数相揃

二十二

は、同役引圓(マ)居御先参其段御供頭

与相成申候

へ申達ス

拾四人先達差出候

右人数割先達而御供頭方差出被^レ置候

拾四人先達差出候

左之通

稲垣撰津守供
三十七人
内 拾三人召連罷出候
拾四人先達差出候

三寺御参之節御供 右は天王寺 建国寺 千念寺 之事也

御城内方被^二召連^一候分

御供頭 忝人 御左り 忝人 御中小姓忝人 御徒目付 忝人

御徒士 忝人 押 忝人 御鑓持 忝人 御挟箱持 忝人

御長柄笠持 忝人 御草り取 忝人 十三人

雨天之節は外に雨具持 忝人増 十五人に成

御先出之方

御中小姓忝人 御徒目付 忝人 御徒士 三人 押 忝人

御鑓持 忝人 御蓑箱持 忝人 御草履取 忝人

手代忝人 手代忝人

御供両掛忝荷忝人 合羽籠五荷五人

御供頭 御左り

供草り取忝人

手代老人

手代式人

式拾四人 雨天之節は雨具持式人御城内方

御召連之方へ相廻御先出之分式人減 式拾式人に成

外に 御馬口付式人 杓籠持老人 御鞍持老人

四人 此分別札出

御陸尺七人 御城外迄呼寄置

御駕籠者御先出之明手御手廻 御城外迄昇出候事

右之通 九月七日

以後とも右之通之御供立に御座候間別段御達

不申候旨御供頭左門殿方被_レ申聞_一候事

○右御駕籠昇出候。明年御年廻是迄

大小差候俣昇出候処、御城代公用人方

御懸合可有_レ之处、内々に而尼ヶ崎

又右衛門ヲ以被_レ仰越_一候間、以後は

刀不_レ差一刀に而昇出候様心得可_レ申

旨直左衛門殿方達有_レ之

右五月十九日喜四郎承

欄外

御歩行の節は、殿様方御届被_レ遊、御供頭御先立有_レ之。又御先三人ツ、罷立。右御供頭より達有_レ之。立方左之通

大番頭 御徒士 同 御徒目付 右之外

御手前 御徒士 同 御徒目付 何レも御跡

御相番 御徒士 同 御徒目付 方参候事

○西仕切御門闔御駕籠通り不_レ申候に付、片扉開候義以来御番所へ定断に相成候段、要人殿方承分迄被_レ申聞_一候事 丑正月十日

○東西仕切御門闔は御駕籠通り不_レ申候外御門何レに而も闔方御駕籠通り申候事

○御先出御人数追手御多門裏溜りへ為_レ扣置篤与人数相改、夫方同役大御番所江以_二手札_一御断に罷越_一 持計ッボリ、着物は落し候俣に而參ル ○御同僚様之御人数待合に不_レ及参次第直に御別繪圖に委細記有_レ之。口

上左之通、稻垣撰津守様 御間 建国寺、御宮へ為_二参詣_一御城出仕候、供連三十七之内式拾四人私引圓(ママ)居、御城出仕候間御断申上候旨申述、右相濟何レも一行に出、老番御鍵 十文字御道具

其次御駕籠、夫方御中小姓 御ミ 御徒士下供与順に出、御番所に而人数算へ候様子也 尤同役は御人数方先へ参、御門下枳形外張御番所江大御番所同様以_二手札_一相断 供人に供草り取之者召連候事

枳形外張は足輕取次に罷出、右へ手札相渡口上申述置候事。其方何レも追手腰懸に扣居候

○殿様には御同道の大御番頭様へ御出之上御城出也 大番頭 御断御供頭相勤是又一行に出

○土橋先方御乗輿御先も右方御供仕。尤御先二行立三段也 ○老番大御番頭其次御名順

也。但當方に而は御率馬ヲ下而、組頭之上へ御名順に附、又組頭者次へ御供挟箱合羽籠ヲ御名順に附ル。依而御駕籠之方は御簀箱押供草り取迄附而已也。○御途中御供立同役落

而見るに不レ及候事。○御城外御途中に而御役人様方御行違之節は、御徒士呼上仕御會釈

有レ之候事御城代者御扣下座也。御定番者其儀に不レ及。○御帰には土橋前に而御先落御下乗也。

夫方殿様方御城入。其後御人数御城入、老番大番頭其跡御名順也。御番所御断出之節通、

同役相勤外張舛形御門下大番所共手札無レ之口上断也。左之通稻垣摂津守様供連之内二十四

人、私引圓(ママ)居御城入仕候間、御断申上候旨申述候事。依而人数失念無レ之タメ書付置候

方宜。○御帰有レ之御供一統、御玄関前へ相揃、御人数引圓(ママ)居候。同役御供頭へ相替

候義無レ之段申達候事。夫方引取且何レへも御届等無レ之候事

○建国寺初之門前に而御道具下供落。御宮外木戸前に而御先落御下乗也

○天王寺石之鳥居前に而御道具下供落、門前に而御先落御下乗也

○千念寺門前に而御先落御下乗也。○谷村治兵衛、大御番頭先へ御案内立候事。

一御城外へ都而御出之節は、同役御供兩人也。老人者御供也。老人は御先出

御人数引圓(ママ)居参御番所御断相勤可レ申事

一御巡見御出之節も都而右之通也。併人数増減有レ之候間、其所に委細記置申候事

一御破損御奉行御小屋廻之節者、前日支配方達有レ之後には御破損方より直に通達有レ之。右に而相勤候事。刻限并何方御出哉。

御破損方に承合候事多分五ツ過也。供人老人召連候御先立之節者跡へ下ケ候事。見歩使御足輕出ル。○其刻罷出、

東西之内御番所江上り相待居候而宜候事。御門外御持場方御先拂、御組目付兩人看板着後には御足輕

に相成候。次江同役老人東西何レに而も、御門内方御門内迄御先立仕。但羽織袴撮股立也。御破

損方老人同役、次江御先立有レ之御門外御持場方被勤候事。御出先は御破損方に承り相勤、上へ下タ共御小

屋内御廻也。只一通り御廻而已也。御殿江御通之義も有レ之候へ共多被二仰置一候事

○雨天之節は無レ之。○出前御届無レ之。○相濟御届三所江申上候事。○立固御足輕

看板着、黒門喰違并下御小屋入口二ヶ所江出。○御相番様御破損方も被レ参候。○前日

御組目付御破損奉行御廻之旨、御小屋とと相触候事。○右同役御先立之義、弘化度は御

仕切外御持場方仕候処、此度御破損方大川与左衛門殿外様御振合も有レ之候間、右には及間

敷段被二仰聞一、其段御年寄衆へも被二申上二、前文之通東西御門内御門迄同役御先立仕候様、

与左衛門殿被二仰聞一候事

但、御鉄砲御奉行御出之節も、右に而可レ然段御同人被二仰聞一候事。右八月廿一日

一御鉄砲御奉行市正曲輪御三手様御小屋之処ヲ言、右裏土手通に大筒有レ之。右御見分之由也。御鉄砲御見分夫方東西御仕切御通行に

付、御先拂御足輕式人看板着。次江同役老人羽織袴着撮股立に而御先立仕供人老人召連御先立之節は跡へ下候事。次

江御鉄砲方老人御先立有^レ之候。但何^レも御仕切外御持場方御持場迄之事。○六ツ半時出宅也。且刻限并御出先之儀御鉄砲方に承合候事。○前日支配方達有^レ之。○出前御届無^レ之相濟、御届三所江申上候事。右八月廿二日

○右同役御先立御人不足に付、加人高森傳左衛門へ被^二仰付^一候に付、与左衛門殿被^二仰聞^一候通、御門内中計御先立に而宜候段通達致置候処、御鉄砲方遠藤三左衛門殿御破損方に而は兎も角も、御鉄砲奉行御先立は先例之通、御門外御持場より致候様被^二仰聞^一、依而御門外御持場方御持場迄御先立相勤候段、高森傳左衛門申聞候事

一其後^{九月四日}御破損奉行月次御小屋廻之節、御先立自分罷出^{八月廿二日御破損奉行御廻に付、御先立喜四郎罷出候処、与左衛門殿御門外御持場方御先立被^レ致候に付、喜四郎も同様御門外方御先立致候趣、同人申聞候事}与左衛門殿へ御鉄砲方之次第、并先日喜四郎相勤候義、相咄二色に相

成候而は如何御座候哉与申候処、拙者共并御先拂は御門外方相勤候へ共、貴様方は先達而御席へも申上取極り候事故、御門内中計御先立に而宜、且御鉄砲方は左様に候共、御奉行も違候へは、夫には不^レ構与宜候段被^二仰聞^一候に付即、東西御門内中御先立相勤候事

一御鉄砲奉行山里御多門江御鉄砲上納又は受取として御出之節は、都而御破損奉行御小屋廻之節と同様之事。但御鉄砲方も、其後は東西之内、御門内方御門内まで於先立被^レ致候間、同役に而も申合御門内中計御先立相勤候事

一御鉄砲御本丸方上納又は受取之節、同役老人目明罷出、前夕支配方方達有^レ之^{右達夜分にも及候義有^レ之。繰合難渋にも有^レ之。且弘化度も御鉄砲方方直に同役江懸合にて相勤候趣に付、其段直左衛門殿へ申上候処、以後は御鉄砲方方懸合に而可^レ被^二相勤^一。別段達不^レ申段九月廿四日被^二仰聞^一候事}六ツ半過出宅也。出前御届三所江申上、羽織袴着用、供人老人召連ル。其刻御鉄砲方部屋へ参出候趣申。何^レも一緒に罷出^{又直ぐに雁木坂下迄別に参候而も直敷候}

御鉄砲方同役大和足軽小頭高木要助、大和抱足軽、御鉄砲長持十棹、外に一棹敷物籠^ツ也。人数者其時々増減有^レ之。○雁木坂下に而御四手様待合相揃敷物有^レ之。右江御四手

^{一方に御鉄砲方一方に目明}着座、右に而人数何十人之旨要助方申聞、左候へは手札へ書入

手札右之通也。右前方御支配方受取置候事

○右人数何十人内に御鉄砲方上下并同役上下共入有^レ之

○右人数腰札要助相渡申候

^{右手札支配方受取候処、度々に而手数も懸り候間、御用部や方直に受取可^レ申候旨、直左衛門殿へ申上候処、其通に而宜候段被^二仰聞^一、依而御用部やへ懸合直に受取申候事}

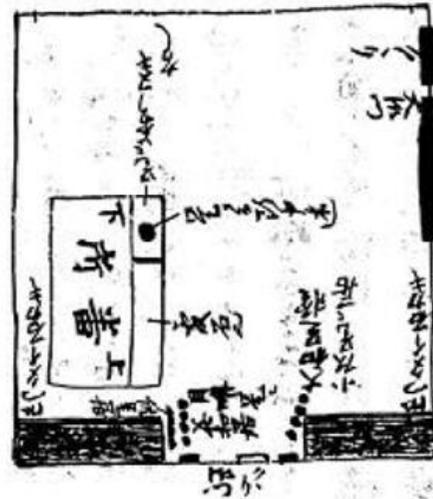
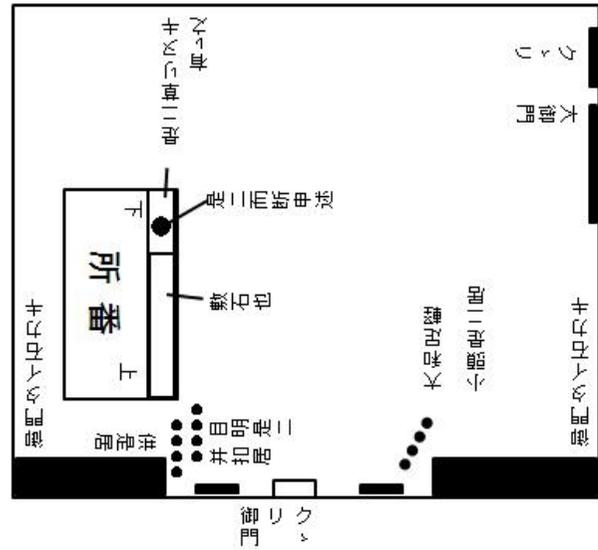
稲垣撰津守

人数

目明

夫方御本丸へ参御御月番之御鉄砲方老人先江被^レ這、桜御門内御番所并舛形御番所へ被^レ断、右相濟与目明之者入。尤御月番之方先へ這ル。夫方御名順に入、桜御門内舛形御番所江以^二手札^一、右何十人繰入候間、御断申候旨相述承分之旨相答、夫方御門際圖之所へ御四手様目

明扣居、右舛形之圖左之通



(原図)

右圖印之處江參御断申述、御番所下之方草り脱キ有レ之處江參也。但雪駄又は下駄着用に而口上述候而も不レ苦候事。又上之方へ參断申述候而も宜敷、併敷石之上へ草履に而上り候事不レ相成一候。咎申候。又ギテ可レ上多分下之方断申述候方宜御座候事

○御鉄砲又者御矢之根長持に入有レ之節者、外卜之冠木御門片扉開申候事

○御月番之御人数先へ繰込、夫方御名順に段々繰込圖之通要助罷出、人数壹人ツ、同役供人迄算立都合何十人と申。右人数之跡へ目明も附一緒に御場所迄參候事、内に而は勤方無レ之鋪物有レ之。右へ上り居而已也。
右敷物并雁木坂下 ○右に而タバコ吸事不レ相成一候併辻番所有レ之。
 敷物共御月番方出 右ウラへ廻りタバコ吸、又は小用等達可レ申事 御鉄砲

御受取敷壹加番九十五挺、二加番六十五挺、三四加番三十五挺也。右相済引取之節は、如レ先御鉄砲方壹人式々所御番所へ御断有レ之。夫方目明之者御名順に參、舛形御番所へ断山里人数繰出候趣、口上計に而相断入候節之所に扣居申候即、御名順に繰出都而入候節通也。尤御月番之方は跡方出也。夫方引取磨小屋へ御鉄砲入、同役無レ構直様引取御届三所江申上候事

○月六際に有レ之。但雨天之節は相述候事 ○刻限に不レ拘要脚上八分下參拾貳文、先兼

屋八兵衛方差出、晦日とこに致レ持參一候。且供人之方も是方相渡ス。然処三役江段と取締被レ仰付一候趣、夫故坎、御鉄砲方鈴木殿方以来要脚相止候。尤刻限に相成候へは可レ差出一旨、十月十四日被レ申聞一候
○中小屋様類役方文内江供人相止、供人之昼喰代ヲ取候様可レ致。尤先年も右之通致候趣に而、此度も御四手様申合、右に致度旨被レ申聞一候に付、文内程よく申居候趣同人申聞候。右申合候へ共供人相止候義は如何にも有レ之。又他之聞も如何に付彼是差支之義も可レ有レ之間、此方に而は是迄之通召連可レ申、外々様は兎も角も可レ被レ致、無レ何与レ能様可レ申置与咄合申候。其後御三手様目明之面、供人連不レ申候事

一御矢之根御本丸方上納受取之節、目明同役壹人出都而御鉄砲と同様之事 ○長持壹棹

也。月式度有_レ之。但し雨天之節者無_レ之候事タバコ吸所無_レ之。但し舛形御番所前ウラ
ニ茶番罷出候間、右へ參吸候与不_レ苦候事

一御相番様之内病死人有_レ之。御持場内通之節東西御仕切へ同役壱人ツ、罷出候。尤支配方
方達有_レ之。左候は、御門内江其刻罷出居候而已也。羽織袴着用供人壱人召連候事。但し御
門清々等之義者先方に而致候。相濟御届三所江申上出前御届無_レ之候事

一御賄下役帰足之節、追手御門送出御断相勤候様支配方達有_レ之。自分相勤出前御届無_レ之
○羽織袴着供人召連其刻罷出同道致し、舛形裏溜へ為_二扣置_一、夫方大御番所へ參御断申述
委細別圖に記 ○前方御城代様江以_二御使者_一御届有_レ之。右写支配方被_二差出_一左之通り
私家来須藤様仁八、岩田善兵衛、中村武市与申者共用事申付在所江差遣申候 依_レ之以_二送
札_一今日御城外へ差出申度奉_レ存候。追手御門無_二相違_一被_二相通_一候様御番所へ被_二仰付_一可_レ
被_レ下候 以上

嘉永五年九月廿四日

御名御印

○右鑑札送札出入札共内札場に而
自身口上断に而借受參り申候事

土屋采女正様

手札は無_レ之

御断口上左之通稻垣撰津守様御両口先刻以_二御使者_一御断申上候。家来三人在所表へ差遣候間、
御門出御断申上候旨申述、夫方三御番所三人送札自分上下出入札に而相通ル。然処舛形御
番所に而先刻御断有_レ之候。送人に候は、一應御断被_二仰聞_一候様申聞候間、稻垣撰津守様先
刻御断申上候。家来御門出御断申上候与、荒増申述候処承分之旨相答申候。依而外張御番
所へも同断申述候。相濟引取御届三所へ申上候事

○掃りは自分上下出入札に而入也 ○荷持は札廻に而
出候事。弘化度は三御番所は送札之而已に而、口上断無
之旨勤右衛門留記に有_レ之候間、右に心得候処本文之通申聞候に付口上申述候。尤送札に人数有_レ之候間、荒増に申述候事 ○右之通
に而は別段送札に不_レ及訳、与存直左衛門殿へ委細申上候候処、御用方に被_レ承候処御破損方様に而も、右之通に而送札口上共入候様被_二
仰聞_一候趣、直左衛
門殿被_二仰聞_一候事

一御勝手向御差支に者候得共、御加番に付三分通り御用捨被_二仰付_一候段、直左衛門殿被_二
仰聞_一候事 右八月十九日

但一統江も無_二下置_一候 ○右當暮可被_二下処御領分不作に付、御勝手向御差支に付来春渡に被_二
仰出_一候段、十月廿三日達有_レ之 ○二月八日於_二鳥羽表_一老俵三斗代老両十匁六分七厘相渡申候

一御金受取有_レ之御席へ被_二差置_一候に付、同役泊番被_二仰付_一。左候へは御用部や

詰所へ泊、翌朝御用方御出仕之上引可_レ申候へ共、御用部屋出仕有_レ之候得者引申候事。但右泊
之内は詰所泊之方御用捨に相成候事

一御小屋部屋ととに而謡之義伺候処、不_レ苦候旨直左衛門殿被_二仰聞_一候事 右九月二日

一出火町方に有_レ之節、承次第御年寄、大目付へ早速御届可_二申上_一。又大目付一緒に 御前江
も可_二申上_一候。尤鎮火之義は不_二申上_一与宜、乍_レ併其火事之様子に寄可_二申上_一候。猶又亥刻
も過候は、明朝可_二申上_一候。乍_レ去近火に而火先杯見江候程之義に御座候は、早速可_二申上_一

候事。右之通之心得に而可然段、直左衛門殿被_レ仰聞_一候事 右十月二日

一御破損方兩人共今晚山里被_レ泊御用方与御用談有_レ之に付、東西御仕切御門鍵預、猶又御仕切之節御門_レ立會、自分被_レ仰付_一候段達有_レ之。兩仕切大御門鍵式本御破損方方受取、又六ツ打罷出、兩仕切共番士立會_一闡為_レ、右鍵式本受取、都合四本自分預申候。明朝御門明は六ツ時過大和足輕取に參、右_一闡之鍵兩仕切共差遣ス。翌朝大御門鍵式本御破損方_一持參致し相渡申候。御届等不_レ致候事。 但御破損方并自分外御小屋住居之事

一下御小屋夜廻之義御人数少に付、大和足輕四人差加り候間、廻り方等氣ヲ付可_レ申旨達有_レ之候事 右二ヶ条十月廿一日直左衛門殿方被_レ仰達_一候事

欄外

○御破損方初メは御四手様共被_レ出候_一共、後_レは代合老人ツ、被_レ出御場所_一詰被_レ居申候事

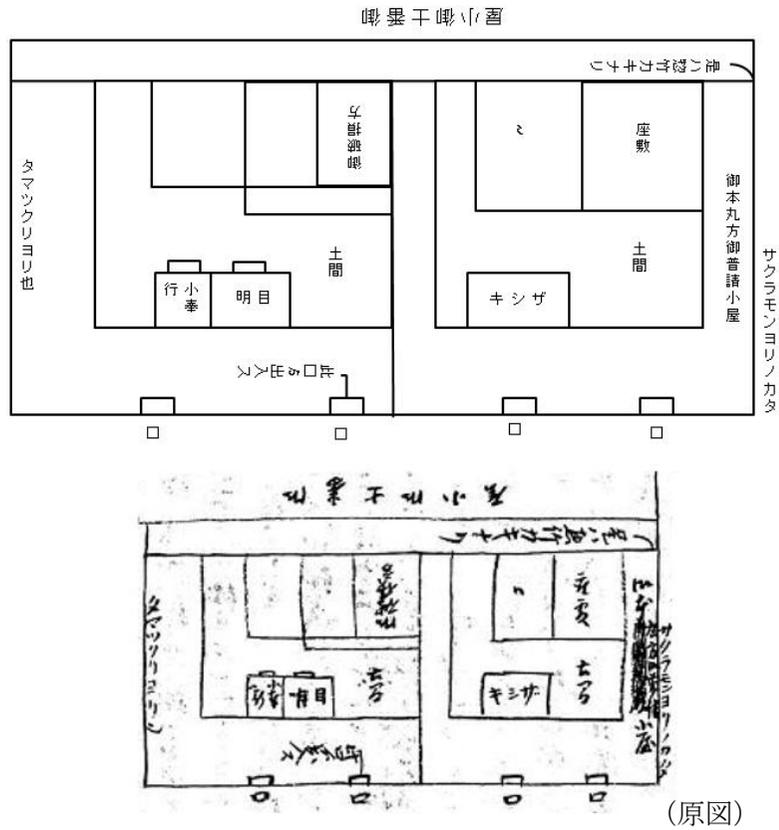
○小奉行も御四手様共初は終日出候_一共、後_レは朝計出代合老人ツ、に而相勤申候。但し人足繰込後は桜御門外に扣居、人足出入為_レ致候事

一船場内子刻頃方出火翌巳刻過鎮火、右に付御城代様、御定番様、兩大御番頭様、御加番様方御揃に而御參上有_レ之。尤殿様方御火事羽織御着用、御供方何しも火事羽折着_一今日御宿鐘に而御城有_レ之。直接御參上有_レ之。尤御火事羽折御箱入參、御城代に而御召替有_レ之。御供方着替參候様御供頭被_レ申聞、代_一御小室迄火事羽折着用_一に罷越、同役御供自分也。半天、ツボリ股引_一而火事羽折着用_一。御三手様には御供方火事羽折も為_レ御持_一相成、御供待之場に而着替致し申_一候事。巳中刻頃御參上、御城代様計御馬印為_レ御持_一也。○御天主臺_一御上り御覽有_レ之候趣也。都而平常御參上之通也。午刻過御退出。○御番所_一と火事具面番之事。○御手前に而は

御用方、御医師、御用部屋御吟味役、并御馬印御茶并當被_レ差出_一、御城代御屋敷前迄參候得共、外様方は不_レ參候に付、御用方豊右衛門殿江其段申上候処、先其邊江為_レ扣置_一候様被_レ仰聞_一候。御馬印附添同役喜四郎罷越候右何しも火事羽折着用也其内御參上に相成、御馬印御茶弁當は直様山里江引取、御用方其外は御跡方被_レ參候。外様には右様之人無_レ之候。引取之上弁當握飯五ツ、先御供方其外迄出ル。○東西御仕切_一直左衛門殿、十郎左衛門殿火事具に而被_レ詰候。御馬屋口_一も同様御徒士罷出、何しも御帰後引取。○御帰午刻過候に付、要脚之義御供頭_一申達候処、御箱に無_レ之間、跡方相渡候段被_レ申聞_一候処、弁當老統_一被_レ下候に付、要脚不_レ被_レ下候段被_レ申聞_一候事 右十一月廿日

一御本丸御普請に付人足目明罷出候段、支配方_一達有_レ之_一以後は御破損方懸合次第罷出可_レ申、別段達不_レ申旨被_レ仰聞_一候 御届之義初日には出前御用方与御支配江申上引取、三所江申上日とは相替儀も無_レ之候は、御年寄御用方_一は前後共不_レ申上_一御支配計_一

前後可ニ申上^一候。尤終には引取例之通、三所へ可ニ申上^一旨申上候処、右に而宜段直左衛門殿被^二仰聞^一候。○羽織袴着用供人召連、五ツ時前方桜御門前地小屋へ罷出、御相番様類役同断且御破損方并小奉行同断、御小屋之圖荒増左之通



右図之通御小屋ニツ有^レ之。桜御門寄之方は御本丸方御普請小屋也。其次玉造寄之方へ、御破損方并明目小奉行入足等這ル也。○初日には昼代合候得共、二日メより老人に而持切相勤申候。又初日は御破損方ト一緒に参候へ共、二日メ方同役勝手に参申候。○昼支度帰り致し要脚に而受取可^レ申与、御相番様類役申聞候に付其通り致申候事

○終日詰切之事。右御小屋に扣居候へは小奉行^{御足輕方相勤}人数何人与申聞^{日雇世話方申聞候義も有^レ之}。自分上下并小奉行共。人数之内へ書入、右手札認方御鉄砲上納受取之節と同様也。右手札支配方^{後には支配へ申達御用部屋へ懸合直と受取}受取。五ツ時打候へは宜旨申聞人足繰入^{御破損方に構無^レ之}。桜御門舛形御番所へ右以^二手札^一相断。尤御相番様明目一緒に参御名順に断、小奉行入足ヲ算へ入ル。都而御鉄砲上下之節と同断。人足繰込相濟御普請場へ参候共、地小屋江引取扣居候共勝手次第に而宜^{右地小屋へ引取候共、又御場所へ参候共勝手に出入}ス。只舛形御番所へ會尺致而已に而宜候事。外へ御番所へは何茂不入候事。人足四ツ八ツに休に引、又九ツ時両度に地小屋迄引取、七ツ時仕舞也。右時と出入之度毎舛形御番所へ口上に而断

欄外

○山里御門舛形御普請有_レ之。人足右御門出入致候付、人足參候節右御門前箱番所へ、目明之者断可_レ申趣也
帰之節は断に不_レ及由。○右箱番所、大番頭同出番也。右下に一ヶ所御番所有_レ之。右は同寄キ番之由

○初日は断申候趣之処、中小屋様目明之人日之事故人足世話方、又は棟梁断に而は相濟間敷哉。世話方
之者へ相咄候処、同人御番所へ承候処、右に而宜段被_二申聞_一候趣に而、以後日と世話方之者断に而相濟目明
断に參不_レ申候段、雁木様目明方通達有_レ之。右山里御門へ參候節は、誰に而も供人連候事不_二相成_一、箱番所前
方に為_二扣置_一可_レ申事也。右四月廿日

○御普請出来、御破損奉行為_二御見分_一御出有_レ之。御四手様御破損方も片側出有_レ之候に付目明之者も申合
四人共相詰居申に五ツ半過御出四ツ過相濟御帰也。無_レ程。人足も出拂候付、桜御門御番所へ相濟出切に相
成候段申述何_レも昼前引取申候事。○御破損方方相濟候段臺内有_レ之候間三所へ御届申上候事

○雨天之節は多分無_レ之に付不_レ出。乍_レ去内仕事之儀も難_レ計候間、小奉行は晴雨共出候間目
明入候節は為_レ知呉候様頼置候。依而為_レ知不_レ呉候は、無_レ之心得に罷在候。支配へも雨天之
節は無_レ之に付、別段不_二申上_一候段申上置候。○道悪敷節御本丸内草り、下駄は勿論、下駄
着用不_レ苦候事。○要脚兼屋八兵衛方差出上分七分供三分也。前方支配并御破損方へ申達置候処、何_レ可_レ被_二候間、左様に承分致候様被_二仰聞_一候。後と者御相番様類役与申合、朝は何_レも出人足繰入相濟与一二三二
四与組合兩人に而半日持昼代合半日は致_二休足_一候。

但晴雨に不_レ拘日持に致し順番に相勤候事。是は當方同役之勤順也

尤表立候義に而は無_レ之、只申合にて無_二急度_一休足取候事、夫故引取御届は、譬朝出昼後之休
但朝夕与隔日に相勤候事。是は御相番様類役与之勤順也

足に相成候共、七ツ過に罷出支配方へ御届申上候。猶又支配へも御相番様類役与申合、頼合に而
休足に引候義も有_レ之旨、承分迄申上置候。○春に相成御普請之節、右半日持之内、又一ト時
ツ、老人に而相勤申候。右何レモ中小屋様類役發言に而、先年も右之通致候由被_二申聞_一候
○老人に而御四手様人足之断申候而も、御番所に而は構無_レ之候。○昼時分方雨に而延引に
相成候節、次口之方へ案内之義其御門番へ頼置、山里は遠方故、是方其御門番迄承に遣候様申
合候事。○供人者朝出候候節計召連返シ申候。尤雨降出候は、傘持迎に參候様申付け返す。
右は口傳也。是も御相番様類役申合候事。右御普請中は目明両御札場与三所三人に而、終日
詰切に相成候。右に而は難渋

仕候間、内札場外席へ被_二仰付_一被_二下候様、直左衛門殿江申上候処即内御札場御免に相成、御
吟味役御勘定方へ被_二仰付_一候事。○五月廿五日方人足八ツ休初_レ。勤順日記に有_レ之
○御本丸御金蔵内敷石致候節、勤方末に記下に○印

一極楽橋仮橋出来に付、御城代様御序御見分有_レ之即勤書出別に扣置、昼時分西仕切之方方

御出御橋御見分、右相濟与直に東仕切之方より御帰也。御持場内御破損方并同役喜四郎羽織袴撮股立に而御先立仕。尤仮橋前迄御先立、橋上者御先立不仕候事。右相濟御届三所江申上候事。右十一月廿七日

一上町出火有之。五ツ時過御相番様御揃御城代へ御出、夫方御参上有之。無程御帰、又々大火之趣に而、七ツ時前同断。右兩度共御小屋方御上初御供方一統火事具に而罷出候事

○何レも御番所火事具面番也。此度者御用人其外共出無之、平生御出之通に而火事具に相成候而已。外相替事無之。右十二月六日昨夜亥刻過方出火、今申中刻過鎮火也

一右出火に付同役江火元見被仰付。尤案内旁大和足輕老人召連候様被仰聞。即、喜四郎火事具着用、供人并大和足輕老人召連五ツ時過御城出仕。夫々見分致し無程引取申候。御年寄、大目付江御届申上候事。右同日

一同役詰三人之者、鳥羽表に而被下候暮定式御取扱金、此度は不被下候。尤鳥羽表に而被下候。□と於當方被下候は御趣意違に付、弘化度者被下候へ共是は間違に而、此度改江戸詰之振に被下候趣被仰聞。候に付、差當甚難渋に付段と相願候処、都而鳥羽表に而御治定に相成候間、被相願。候は、鳥羽表に而以同役可被相願。尤拙者方も弥次右衛門方へ委細可申遣旨、直左衛門殿被仰聞。候に付、鳥羽同役江相頼、再應相願呉候様に左之通申遣。文政度暮御取扱式分ツ、是は茶料旁御差合に而被下之、三分に銀式匁ツ、是は御国表に而半年も相勤、爰元出精相勤候に付被下之。弘化度は式分ツ、茶料、尤爰元計壹分増壹分式朱ツ、出張多式分ツ、不正懸に付勘右衛門、元右衛門へ被下之。右之通先年方被下置候。依而茶料出張多、又不正懸に付連蔵、文内江被下置候様、又御趣意合違候へは、文政度之□に御達に而何分被下置候様委細申遣候処、鳥羽表に而再三被願呉候趣之処、何分相濟不申段申越候事

○外御札場弘化度与は御人減、同役三人に而持切相勤候に付、式分ツ、被下置候。尤御差含有之候趣也。○茶料として壹分ツ、被下候。是は増々壹分ト相見申候。此後外席願も有候趣に付、同役に而も相願候へ共、不相濟委細日記に有之候事

○弘化度御取扱委細未記置候事

一同役弓張提灯損し候に付、張替之義支配方へ申達、カワヲ吟味役へ差出銘と追々張替申候事
一紀伊様御逝去に付、左之通相触候様、酉刻過御門鐘に而直左衛門殿方被仰達候事。22

欄外

○翌七月□寿院様御中陰有_レ之。委細日記有_レ之

紀伊一位様去月廿日御逝去被_レ成候、依_レ之普請者今日一日、鳴物は来十一日迄御停止被_二仰出_一候。二月五日 右之趣可_レ被_二相触_一候

下両御小屋并東西両御仕切へ自分相触。但し夜分に而供人割場江申付候儀難_二出来_一、依而小番召連弓張提灯為_レ持相触、山里は文内泊に付喜四郎一人に而相触。但し大御番所江も相触相濟御届 御前御用方御支配へ申上候趣自分義も翌朝御用方御支配へ申上候但九郎兵衛殿御引込御用不_レ被_レ承候に付、御触之旨申上御

届は不_レ申上、依而御用方へ御届申上候事 ○昼夜老度ツ、相廻候様被_二仰聞_一候。尤御組目付同断に付申合、四ツ八ツ与隔番に相廻、夜は宵与夜中与相廻是又同断。昼は老人に而上下夕共相廻、夜分は御仕切有_レ之に付、下小屋自分老人に而両度は難洪之旨申上候处、見計に而宜旨被_二仰聞_一候に付老度ツ、相廻、御届初計御年寄代に御用方并御支配江申上、又十二日御中陰済に右御同人江申上ル。但申上置候事 ○先年は昼廻着流に而、杖持参に而相廻候趣成共、此度は羽織袴に而可_二相廻一段申上候处、右に而可_レ然旨被_二仰聞_一即羽織袴に而供人召連相廻候事。夜分は着流に而提灯持参に而相廻、蠟燭吟味役方受取 ○御書付出左之通り

御中陰中、御家中之面と御城出之義御差留に候。尤病用は其次第により可_レ被_二差出_一候。且又無_レ據用事に而使差出候共、可_二相成丈見合_一可_レ被_レ申候

右之通被_二仰出_一候へ共、川水汲等は不_レ苦候間、問合之向も有_レ之候は、右に被_レ答候様、直左衛門殿方達有_レ之。依而札廻し御足輕平常之通出申候 ○夜廻有_レ之に付、弘化度は泊御用捨に相成候得共、此度者御沙汰無_レ之候。是よりも不_二申上_一泊相勤申候事 右二月五日

欄外

○御番所前引戸者戸ヲ女引置密成_レバ窓之簾ヲ上置可_レ申候事

○送出引取之節大番所へ口上申述候様、丑六月御中間送出之節申聞有_レ之。委細末に記 下に△印

一九郎兵衛殿病氣に付被_二相願_一帰足之節、駕籠に而山里方御城出に相成。猶又左門殿看病願濟に而被_レ参、右送り被_二仰付_一自分相勤、羽織袴着供人召連出前御届、御用方大目付へ申上ル ○御届書写支配方被_二差出_一左之通

私家来稻垣九郎兵衛与申者、病氣に付在所江差遣申候。依_レ之上下拾五人以_二送札_一明朝御城外へ差出申度候。右之者步行難_二相成_一候付、御城内駕籠に而差出申度奉_レ存候。追手御門、北仕切御門無_二相違_一被_二相通_一候様、御番所へ被_二仰付_一可_レ被_レ下候。以上

嘉永六癸丑年二月七日

御名御印

土屋采女正殿

私家来稻垣左門与申者、用事申付在所へ差遣候、依_レ之上下四人以_二送札_一、明朝御城外へ差出申度奉_レ存候。追手御門無_二相違_一被_二相通_一候様、御番所へ被_二仰付_一可_レ被_レ下候。以上

前同断

山里大御番所、御門下枅形、西仕切御番所へ御断申候

長旗に而被_レ参候に付、西仕切御門間は通不_レ申候に付、極内に而片扉開候間承分迄内へ申達置候段、直左衛門殿被_二

仰聞候。右は御城代御用人江内へ問合有_レ之、差含に而極内取計に相成候趣也。倍臣に而は片扉開候義不_二相成_一候由

京橋大御番所見通に相成候に付、御断罷越上番之横

手へ_レ参 取次出候趣之処今日は不_レ出。夫方被_レ仰聞候様被_二申聞_一候に付、右に而相述へ申

口上左之通 何_レも手札無

稻垣撰津守昨日以_二使者_一御断申上候。家来老人病氣に付在所へ差遣候。尤駕籠に而御城外へ差

出申候御見通に相成候間、御断申上候旨申承分致し候段相答、夫方北仕切御番所江御断申参処、并口上京橋同断 但し見通し与申事無_レ之 番士敷居際迄出ル ○追手大番所御断例之通也。口上左之

通り。稻垣撰津守様方昨日以_二御使者_一 御断申上候。家来稻垣九郎兵衛与申者病氣に付、

在所表江差遣候。尤駕籠に而御城外へ差出申候。猶又稻垣左門与申者在所江差遣申候。都合上下拾九人御城出御断申上候旨申述、夫方三御番所江十九人送礼、自分上下出入札差出荒増口上添ル。右に而相济引取、自分上下出入札に而御城入致し、御届御用方大目付へ申達候事。

荷物方持等者礼廻に而出候事 右二月八日

一殿様、京橋御定番米倉様御下鳴野之御屋敷江、久貝様、中小屋様御同道に而御出有_レ之。但御馬に而被_レ為_レ入候。御馬脇御供頭御左り、御近習、御納戸、御中小姓右老入ツ、都合五人御先同役共五人押、三人御供箱并合羽籠は天氣宜候に付、為_二御持_一に不_二相成_一、若雨天に相成候わ_レ跡方別札に而参候旨御供頭被_二申聞_一、外例之通御鑓モ式本御箱モ三ツ也。惣御人数都合廿四人也。内御供十三人、御先出十一人御供自分加人専右衛門相勤、御先出御人数断、例

之通自分相勤 ○御馬脇五人押老入御草り取供草りべ八人居残。又御鑓、御箱、御馬相残申候。跡十六人御供帰、右御城入之節、又為_二御迎_一御城出之節共、鑑札に而追手御門出入可_レ致。右鑑札自分取計候様、御供頭被_二申聞_一即内御礼場に而自分口上断に而鑑札借受 但書付に而も貴度言、内礼場に而申聞

候は、自身之書付可_レ違事

右に而平常之通出入致申候。尤自分鑑札取扱申候 但何_レモカマツボリ候ママ出入ス

御下屋敷御門前に而

御先落、右に而御下馬也 ○御用人御医師被_レ参別札出也

○御迎七ツ時参着、尤御迎触有_レ之様御納戸中へ被_レ申候様、御供頭被_二申聞_一引取之上、其段御納戸中へ申。尤外与_レ之義に候間八ツ半前に触御差出被_レ下候様申達置、其刻触有_レ之。例之通相揃、夫方御城出致候。但御草り取老入昼後より代合に罷出、先之者は不_二引取_一直様居候段申

聞候。依而十五人之出に相成申候。○御供頭江御迎參着致候旨申達置候。○御帰り七ツ半過御城入、御番所御断例之通也。右三月七日

一道明寺天神江御巡見。前日御供頭方野服之旨通達有_レ之。并御出触例之通御駕籠脇御先半天、股引、割羽織着_{何レも草り着也。外様御供方は何レも草鞋之事}。六ツ時御供揃にて御出、久貝様、中小屋様御手前御

同道也。久貝様へ御揃之上御城出御人数例之通。之外御茶弁當持人式人、御坊主老人、御用人鍵持老人へ四人増、都合四拾老人也。内十三人御供式十八人御先出、同役御番所断例之通相勤。○御用人老人、御医師一人御供に候へ共右は別札也。御馬も同断、御馬役御中小姓内へ加ル。○御供喜四郎、自分相勤。○追手御門外方御駕籠被_レ為_レ召、御道筋荒増左之通り

一玉造奈良道通り

一いかいの村御勝山 御小休御野立也。是方御馬に被_レ召。御供廻り平野迄御先江參ル

一平野 古河様御領分御馳走御役人出有_レ之。右入口方河端迄惣御供

一河鍋 御小弁當所 中小屋様御持 下宿有_レ之御小弁當老統へ被_レ下

是方御乗切御供方何_レも御先へ參。○御鍵者式本共參御箱は二ノ方為_二御持_一、一三并御茶、弁當惣下供は御昼平野迄帰、右同役老人引圓(ママ)居參候様御供頭方達有_レ之。自分御坊主押老人相殘其餘者御供也。○平野入口迄帰り右に而御供待、夫より御弁當所迄惣御供也。曇天に付合羽籠は押老人附川鍋江残置、若降出候は、早と御

迎に參候様申付置、何_レも御三手様御同様也

一道明寺天神 一菅田八幡宮 一藤井寺

一河鍋 一平野 お弁當所 古手屋 御手前持也

御供下宿二ヶ所有_レ之。右に而老統江御弁當被_レ下。○御先番、御近習、御納戸是方

御駕籠に而惣御供也。○御奉行吟味役御料理人

一河堀 コボレ 若松屋 御小休 杜若 ご覽有_レ之 天王寺之ワキ也

一上本町通 御城入 七ツ時 凡五里ヨ有_レ之趣也

御馬式疋也。老疋は御用人被_レ乗候事 久貝様御供方日笠冠候に付、御手前に而も一統相用候。都而外御出

与同様之事。○御弁當、御小弁當共御礼不_二申上_一候。去冬御巡見之節御弁當少分之趣に付、其段御供頭江申置候処即、此度相増申候代に而老人前老分増之由

○弘化度は、御初尾其外御宿料等前方御吟味役方附紙に而同役受取、片箱江入為_レ持參御供頭江承、先方に而夫と取計受取書取候趣之処。御掃之上御割合に相成候趣也 當年は右一切無_レ之、都而谷村治兵衛為_二御任_一相成候段、御供頭被_二申聞_一候。依而同役取計一切無_レ之候事。右四月十九日

一安治川邊御巡見前方御徒士中与申合、先日道明寺御巡見之節、外様御供方麻羽織着用有_レ

之。尤暑サ強其後日と増^二暑氣^一に相成候間、時節違には候へ共、麻割羽織用度段御供頭江申達候処、宜旨被^二申聞^一候。御供頭方草鞋可^レ用旨被^二申聞^一候に付、御徒土中申合、先日は道法も有^レ之候共、此度は里数も無し相成候間、草りに而可^レ參旨被^二申聞^一候。御先之処草り用度候へ共、御駕籠脇草鞋に而は如何に候哉。御供頭江承候処如何様右に而は送候様に申聞^一統草り着用致候事 前日御供頭方野服之旨達有^レ之。又御納戸中方六ツ時御出に付、只今

触不^二差出^一、又上御小屋者押付触出候得共、下御小屋者御仕切有^レ之に付不^二差出^一候間、其御心得に而可^レ被^レ成^二御出^一旨被^二申聞^一。○御出触例之通有^レ之。○御弁當、御小弁

當共永楽屋に而被^レ下候旨御供頭方被^二申聞^一。○六ツ時御トモ御揃に而加納様、雁木様、御手前御同道に而御出、御供文内、自分相勤即御駕籠脇御先共一統半天、股引、麻割羽折着用ス。○御道筋左之通。右書付御供頭方被^二差出^一候

安治川邊

一平野町通 一ぢいば 一九条村 池山新兵衛 ○御小休是より御馬に被^レ召

一安治川通 一天保山 御弁當所 永楽屋源之助 ○御昼御手前持也 ○御先番先日之通也

○御小弁當同所雁木様御持也 尤御出直様御小弁當。夫方大筒丁打御覽、其後御昼也

○御供下宿ニケ所有^レ之。両度御弁當一統被^レ下。○御帰り右方御駕籠

一安治川通 一ぢいば ○阿弥陀ヶ池開帳江御立寄。夫より

御馬に被^レ為^レ召長堀江戸屋御立寄。夫方御駕籠心齋橋筋方

一本町通 御城入 ○七ツ時過也 ○御途中日傘相用申候

御先出御人数 殿様御供計同役に而御番所断申候。以後共右之通之旨御供頭被^二申聞^一候。

依而例之通之御人数之外、御茶弁當持人式人、御坊主老人^レ三人増、都合四十人之内式十七人御先出に相成、御用人、御医師御供有^レ之候へ共、上下不^レ殘別札出之事。○御牽馬老正而已也。○御宿料等同役取計無^レ之右之外都而例之通事。右四月廿八日

一道明寺御巡見之節、旗頭方御供頭江御陸尺七人之処、外様八人にも有^レ之。且者御上も重

ク御座候へは、八人に被^二成下^一候様相願候処不^二相濟^一候趣、附而は陸尺自分雇にて老人増、無地看板着せ差出、其段同役江申聞候間、御供頭江申達候処、其後御供頭方如何之趣篤与

相尋候様、又先日御供頭へ直に相願候義も筋違に而、都而各方へ申出各方方拙者共承義に候間、右之処も被^二仰置^一候様被^二申聞^一候間、政田屋手代江其段申達置候。増人之儀は七人

に而は甚難渋之趣に候間、八人に被^二成下^一候様申聞候間、右之趣申上候処今度御巡見に付段と内願も有^レ之。依而御用方へ申達候へ共不^二相濟^一候間、自分雇にて差出候義は大目に見

置可^レ申段、要人殿被^二申聞^一候。然処此度も自分雇にて而老人差出候間、内と御含被^レ下候様

旗頭方申聞候間、御先江不^二出サ^一御跡を昇せ候様申置、右之段御供頭江申達候処、承分之旨被^二申聞^一候事

一安治川御巡見之節、阿弥陀ヶ池御立寄之砌、御率馬御同伴之御番士之鑓刎倒鞞カケ、右鑓持糊に而ツケ間に合せ候へ共、押下供杯に而右之嚙取と申候間、右之段御供頭へ内と相咄候処、御用方へ談可^レ申旨被^ニ申聞^一候処、御用方々谷村江被^レ談候趣、御供頭方被^ニ申聞^一候事

一御本丸御金藏廻江此度新規に敷石出来に付、日と人足入目明例之通罷出、右御構外に而石拵致し置候事 ○右敷石致候節、御四手様に而目明式人ツ、罷出候様御破損方方申聞有^レ之

○御破損奉行御金奉行老人ツ、御金藏御番所江終日御詰有^レ之。又御破損方式人ツ、并目明式人ツ、罷出、御金藏御構御門内江終日詰居申候。右御門明ヶに參候御番人江、目明之者

名前申述 手札差出候方宜候へ共差懸ク用意無^レ之に付口上に而申候尤御破損方被^ニ申聞^一候、始終何^レも口上に而申候事 小奉行も式人ツ、出、老人者例之通桜御門

外に扣居、老人は右御門に而人足算申候 ○初メは御破損方并目明共式人ツ、右御門内へ詰居候へ共後とは老人詰居、一人は右御門外へ出休足致代合申候。尤發物地小屋方差出見計發せ右に着座ス。但御破損方も右同様共同断也 ○伴人右御門外へ残置申候。御破損奉行通も同断也 ○目明之者朝与昼後与代合相勤候事 ○右出来上之節御破損奉行、御金奉行御見分有^レ之。又御四手様御破損方并目明四人共罷出ル。四ツ時前相濟、桜御門御番所へ人足出拂申候段相述引取 ○御破損方より右に而相濟候段、被^ニ申聞^一引取御届三

所江
申上候事 右五月

一御中間幸助病氣に付帰足致候節、步行難^ニ相成^一候に付御城内方駕籠に而罷出候。右之趣御城代江御届に相成候処、駕籠之義は不^ニ相成^一候由^口に而差出候様御沙汰之趣に而、又候御届直しに相成候。先年は駕籠之御届に而相濟候へ共、此度は右之通御沙汰之趣に御座候即、御届出之写支配方被^ニ差出^一、左之通

私召仕中間老人就^ニ病氣^一在所江差戻申候処、步行難^ニ相成^一候に付^口に而介抱人老人差添、右式人今日以^ニ送札^一從^ニ追手御門^一 御城外へ差出申度奉^レ存候。追手御門、北仕切御門無^ニ相違^一被^ニ相通^一候様、御番所江被^ニ仰付^一可^レ被^レ下候。以上

嘉永六癸丑年六月一六日 御名御印

土屋采女正殿

右に付追手御門送出相勤候様被^ニ仰聞^一、自分罷出出前御届御用方大目付へ申上、御持場四ヶ所之御番所江御断申。猶又京橋御番所へも御断に罷越 取次罷出當番姓名
中自分名前承申候 北仕切、追手大番所并三番所同断。病人、介抱人、送札駕籠昇候者三人、御中間等に付出入札也。相濟引取自分上下出入札に而御城入、外三人者札廻しに而御城入に相成、引取御届三所へ申上外例之

通り也

△御手御門下御番所御番人方相濟、御引取之節送出候段、大番所へ被_二仰上_一候様申聞候間、是迄引取之節申上候義無_レ之段相答候処、大番所方御沙汰有_レ之候間、一應被_二仰上_一候様申聞候間、即相濟引取之節、例之通大番所江参口上、先刻御断申上候病人無_二別条_一送出候間、此段申上候旨相述候処、取次番頭へ被_二申聞_一承分之段申来候。夫方引取申候。依而以後共右之通可_レ致候事 右六月十六日

一公方様薨御に付、申之中刻頃即刻御出触に而御相番様御揃、御城代様江御出有_レ之。御供自分相勤御帰西之中刻時分也。御太鞍打延に而何_レ之御門も開有_レ之。夜中故御帰御提灯入即御先江箱御提灯弐ツ、押手提灯壹ツ相用イ申候。右御供頭要人殿差圖に候事

○外様も御同様也 右七月廿六日

一八月二日朝方御小屋内御中小姓格以上裾細、其以下着流、但何_レも引ハダ懸居候事。猶又半天、股引着之人も有_レ之候事

一同日御仮御城入に付御城代江御出、猶又昼後御城代両御定番へ御出之節、御供服、御中小姓者裾細、御徒士同役者ヂンく端折脚絆着麻振子羽織引ハダ用候事

一御城出之節同役踏込着用は可_レ被_二見合_一候。立付成り共半天、股引成とも勝手次第被_レ用候様被_二仰聞_一候事 ○猶又若雨天之節は、御中小姓格

以上は手傘、板打草り相用候而不_レ苦候一躰は諸士以上之趣也 其以下は桐油可_二相用_一旨伺候処、直左衛

門殿被_二仰聞_一候間、自分義御行列相揃候に、桐油に而は御行列帳見候事難_二出来_一、甚難渋之義に御座候段申上候処、左候は、相揃候内手傘被_二相用_一、御城出之節者桐油被_レ用候様被_二仰聞_一候に付、段々誤合申上候得共、直左衛門殿彼是與被_二仰聞_一候事

一人足繰入荷物繰出之節、目明罷出候節者踏込着用不_レ苦候旨、被_二仰聞_一即踏込着用申候事一荷物追手御門方繰出に付、目明御門下辻請人、舛形大須賀兔毛外張角熊文内諸事御繰込之節之通也。但御番所方敷物出有_レ之。右江着座ス。御門下は大御門之処、舛形者冠木御門與御番所之間、外張同断也。舛形与外張江出候者式人、札持参御番所へ見せ候事。尤持参不_レ致候処、御門下御番所に而持参致候様申聞候趣也。相濟引取御届例之通

一文内、与兵衛二日夕刻鮒宇迄御先江罷出、文内今朝三所へ御用伺参。但御城出は御届に相成送出、喜四郎相勤候事

一政田屋方日雇御雇、右呼入に相成候処、御足輕以下百五十人呼入之御届之趣に而、追手御門断相勤候様被_二仰聞_一即、喜四郎迎札を以呼入相勤候事

一明三日御交代に付暮六ツ打延、追手御門其外迄御門と開有_レ之。山里御家来通用ス。五ツ

頃打切御門と停止候事

一 明三日御供揃、丑之刻揃之旨惣触有_レ之候事

一 八月三日^天御出押付触有_レ之。右に而何_レも御小屋江罷出、無_レ程御武器繰出、京橋御定番御長屋下江三行に相揃候事

但懸り三人に而夫と致_二差圖_一候事 ○御行列に御提灯者無_レ之候事 ○自分儀絹

布羽織立付着用、供人召連候事。尤自分紋弓張提灯相用申候事 ○外席は多分割羽織

着用之事

一 殿様にも無_レ程御出、京橋御定番御屋敷角御行列之上江御床机に被_レ成_二御座_一候_{御供廻り御行列帳之通}

右御供御城方アミチマ迄御徒士同役共、デンく端折麻振子羽折着用、御供喜四郎相勤申候事

一 卯之刻前頃大久保様衆御小屋受取繰込に相成申候。高張提灯山里丸内江持込候事

一日之出頃御使者有_レ之。殿様御直に御受、夫方御行列御繰出に相成申候。京橋大御番所江

御定番并御目付御出席、其外都而御城入之節与同断也。御行列出拂候而方 殿様御番所江

御出、夫方御城出被_レ遊候事。京橋口土橋外大久保様江御挨拶被_レ遊、夫方御乗輿に而御行

列帳之通御供立に相成候。尤御供御先出之方筋鉄御門方御堀の方へ扣セ置、右上京市大夫

同役心得、御武器締に而御先江出候に付、御先出御供之分残居候様差圖致候事 ○京橋

口外方網島迄、同役御供加人傳左衛門デンく 端折に而御供仕候事

一 御交代之節京橋口両御門共開門并、西仕切、山里冠木御門片扉開有_レ之候事 ○山里冠

木御門二日夜者開切也

一 殿様五ツ過頃鮒卯御發駕被_レ遊候事。附り右鮒宇江銀子方并御出入町人共御暇乞に先例罷

出候処、御中陰に付御断に相成不_二罷出_一候事

一直左衛門殿、文内、自分、録藏御足輕共鮒宇に而御武器取仕廻、昼過頃同所裏方船割之

通乗船致候。但御用に而鮒宇居残之者へは支度被_レ下に相成、右之面とも同所に而支度致同

様に候事、外には弁當或要脚渡候事 ○船割前方十郎左衛門殿方左之通廻状来

乗船組合

一 具足 一 葛籠二 一 稲垣直左衛門 上下四人

一 葛籠 二 一新井弥六郎 上下式人 一 葛籠 二 須藤連藏

一 葛籠 二 角熊文内 青木録藏 中野幸治

一 上下拾式人<sup>○内二人
識申候</sup>

具足 老荷葛籠 八 惣式拾式人前

右 三拾石老艘

○寅刻時分伏見江着船致候

一同月七日^天直左衛門殿、文内、自分、其外同船之面と道中無^レ滞小俣村止宿に而、今昼過
歸着致候事

直様直左衛門殿、文内、自分同道に而御年寄衆江御届に罷越。夫方文内、自分、御用人并弥次
右衛門殿へ御届に参ル。何レも被^レ會申候。夫方帰宅ス。且同役御吟味役江廻状差出、同役
江今日は参不^レ申候事

但喜四郎、其外帰足之面と何レも今日着有^レ之

一翌八日、六郎右衛門殿、豊右衛門殿へ三人一緒に参申候。六郎右衛門殿念に入候義別段
面會不^レ致候趣、被^レ仰聞「被^レ會不^レ申候へ共、其後参不^レ申候、豊右衛門殿被^レ會申候。又
十郎左衛門殿へ挨拶旁参申候事

一翌と九日直左衛門殿へ三人一緒に挨拶旁罷越申候事

一喜四郎閑宿迄御供、連藏、文内義者鮎宇に而御暇被^レ下置候段被^レ仰達候事

大坂三町人

大工大棟梁 山村与助

大御番頭

尼崎又右衛門

御道御案内役

瓦方 寺嶋藤右衛門 瓦屋卜言

谷村治兵衛

兼屋庄次郎

御交代順并定日

御米中次

多田屋徳右衛門

八月三日

尅加番

竹川彦太郎店^{ツケ}

と 四日

三加番

手代 覚助

と 五日

弍加番

御破損方懸り

兼屋庄次郎

と 六日

四加番

兼屋八兵衛

と 七日

大御番頭

御鉄砲方懸り

兼屋忠助

右翌日方

大御番頭

外御札場借宅

天満屋弥左衛門

右畢日方

大御番頭

諸道具損料貸屋

河内屋太兵衛

御取扱之覚

弘化度

- 一金壹匁ツゝ 并拝借
- 一と壹匁ツゝ 江戸詰相勤二度目大坂詰に付先例に付拝借
- 一と三兩貳分ツゝ 大坂詰に付御取扱當方に而半高後残大坂に而暮渡
- 一と貳匁ツゝ 御人少繁勤に付御取扱渡方前同断
- 一と壹匁ツゝ 世話敷相勤候に付御取扱暮渡
- 一と壹分貳朱ツゝ 難船出張に付御取扱いと
- 一と貳分ツゝ 不正懸りに付勘右衛門元右衛門へ御取扱暮渡
- 一と壹分ツゝ 茶料暮渡り
- 一と壹分ツゝ 同断當所計貳分に被_二成下_一三月追渡
- 一と壹分二朱ツゝ 御供世話敷相勤候に付御取扱三月渡
- 一と壹分ツゝ 昨年来出精相勤候に付為_二御褒美_一被_レ下_レ之
- 一と壹匁ツゝ 諸色高直に付難渋願濟拝借被_二仰付_一
暮御切米に而上納七月渡

弘化度御取扱直左衛門殿方御尋に付、右ヲ書取差上申候事 右六月五日

嘉永五壬子年

- 一金壹匁ツゝ 五月十二日渡 并拝借
- 一と三兩貳分ツゝ 大坂詰に付御取扱半高六月九日に渡残半高大坂に而暮渡
- 一と貳兩ツゝ 同 御人少繁多に付御取扱半高六月九日に渡残前に同
- 一と壹匁ツゝ 六月九日渡 詰式度目に付拝借 但し添拝借也
- 一と五兩ツゝ 七月六日渡 御判金
- 一と壹匁ツゝ 十二月廿六日達
と廿八日渡 繁勤之処出精相勤候に付被_レ下_レ之
- 一と壹分ツゝ 右 同断 町方廻りも有_レ之に付茶料被_レ下_レ之
- 一と貳分ツゝ 右 同断 外御札場出役此度は老人相減世話敷相勤候に付被_レ下_レ之
但暮定式御取扱不_レ被_レ下_レ候に付御差含有_レ之趣也
- 一と壹分貳朱ツゝ 三月三日達渡 定式暮被_レ下_レ金 但不正懸御取扱は不_レ被_レ下_レ委細日記有_レ之
- 一と壹分ツゝ 右 同断 昨年来出精相勤候に付被_レ下_レ之
- 一と壹分貳朱ツゝ 五月四日達渡 昨年来御出繁之処出精相勤候付為_二御取扱_一被_レ下_レ之
- 茶料百疋増被_レ下_レ之義此度者不_レ被_レ下_レ委細五月之日記に有_レ之
- 一と壹兩ツゝ 七月廿七日渡 大坂出立前難渋願に而拝借

但當暮上納之積に而拝借候処、諸席延願有_レ之に付、同様相願候処、相濟寅春秋兩度に上

納致候事

御番衆上町組御宿ヶ所南組郷丁数控

天保九戌年五月

御番衆上町組御宿ヶ所南組郷丁数控

上町組宿割支配丁

嶋町筋三丁

南久太郎町三丁目	南久宝寺町一丁目
同 四丁目	同 二丁目
同 五丁目	同 三丁目
同 六丁目	同 四丁目
北久宝寺町一丁目	同 五丁目
同 二丁目	いはらき丁
同 三丁目	博労町
同 四丁目	上難波町
同 五丁目	順慶町 一丁目
源左衛門町	同 二丁目
金沢町	同 三丁目
金田町	同 四丁目
初瀬町	同 五丁目
北勘四郎町	浄国寺町
塩町 一丁目	安堂寺町 一丁目
同 二丁目	同 弐丁目上半
同 三丁目	同 下半
同 四丁目	同 三丁目
車町	同 四丁目
南勘四郎町	同 五丁目
長堀橋本町	長堀 十丁目
同 治郎兵衛丁	小西町
同 心齋町	九之助(カ)町 一丁目
同 茂左衛門丁	同 二丁目

南米屋町
木挽北之丁
ノ五十丁

天保九戌年五月
御宿町名附

舟場御宿割方
高麗橋三町

南本町一丁目上半	唐物町 一丁目
同 下半	同 式丁目上半
同 二丁目	同 下半
同 三丁目	同 三丁目上半
同 四丁目	同 下半
同 五丁目	同 四丁目
北久太郎町一丁目	ひなや町
同 二丁目	南久太郎町一丁目
同 三丁目	同 二丁目
同 四丁目	
同 五丁目	

ノ二十丁 右丁ヶ所に而御宿廿軒被_二仰付_一候

天保九戌年五月

大番衆様方御宿勤方粗方
高麗橋三町

御殿様居間	八畳 以上
御用人様御間	六畳 以上
御侍仲間御間	八畳 以上
御鎧櫃老荷御乗物馬荷式駄位小付有	

御道具

右御荷物置場所入用

座鋪銚付左に

床之間掛物見合 目出度圖よろし

生花

料紙文箱硯箱半紙墨

御刀掛掾(カ)敷手ぬぐる掛
湯殿廻り
下之分同

上廁 随分寄麗也

夜分座鋪行燈手燭用意

高臺茶吞茶碗壺對田葉粉盆宜敷

方高槻菓子盆 卷のし付銚熨斗三方也

御殿様御膳大木具椀黒縁金

焼物菓子椀等木具にてひく御酒之節、硯蓋鉢類都而木具哉

御殿様絹夜具 御家来之分木綿夜具

次之間座鋪行桁御鑓掛

侍衆仲間之間 式棹入用

侍衆仲間衆黒本膳也御酒之節御通り之心得

但御用人都而御家来衆給仕候手代勤ニ袴着ニ 勿論御上は亭主上下着

始り

御宿支配丁方廻章相廻り候節左之通御認御差出し可レ被レ成候

覚

何丁

一 御宿 亭主 何屋 誰

但 何町通何丁何江入何側

右之通御座候已上

戌八月

何町印

御宿支配町

座鋪廻り其外家内勝手廻り惣絵圖 美濃紙認一緒に御差出し可レ被レ成候

八月二日比、御宿割御兩殿様町之宿と御見分被レ遊候間、前日支配町方廻章相廻り候間、

其積りに而前廣に掃除繕ひ等為_二行届_一置、不都合無_レ之様可_レ被_レ成候

同三四日比、再掃除御見分在_レ之。是も支配町方前日に廻章相廻り候。併可_二相成_一は、前之二日比宿見分之節に諸事為_二行届_一置寄麗にいたし置度事。掛物を掛、花を入、鋳物都而かさり立置度事に候

宿見分相濟候は、御性名書、宿札御渡被_レ成候間、板に張門口に掛置べく事

右御見分相濟候上御諸証文被_二仰付_一候間、実印支配丁江持参之事

御番衆様方先川跡川之模様而、支配町方廻状差出し候付、亭主方御迎可_二罷出_一事

但八軒家濱宿式軒つゝ申合組合に而船便宜

亭主名代袴羽織人足箱提灯持ツ、外に人足老人、都而宿老軒に右之通三人つゝ、右之内老人之人足は御宿船之時宿江知らせ走ル

亭主麻上下に而宿之門口江御出迎平伏ス

御殿様座敷江御直り被_レ成候は、直様亭主三宝鋳のし持出御前に差置、亭主名前申上、御機嫌よく御宿着之趣恐悦可_二申上_一事。

次に田葉粉盆、御茶、御菓子差出し候事

勿論御殿様御給仕亭主可_レ致事

御番衆様方八月五日方八日迄に追々御宿有_レ之。

御宿時刻朝暮夕曉不_二相分_一故、御着之之(ママ)節御膳は平日之御膳部可_二差上_一、其上御用人与御窺之上、昼飯に御祝義之御膳酒差出し可_レ申 三ヶ盃花月臺

御出立御祝義之御膳等御酒共御調之上、宵晩に差上申 料理向は先例在_レ之、御城入之節夜九ツ時分平日料理之御膳差出、七ツ時分に宿御出被_レ成候。人足老人ばんば江御荷物番に可_レ遣。猶亦、前日に人足方印鑑宿江持参可_レ致。請取置御出立之節御荷物運び人足、右印鑑持参引替に荷物可_二相渡_一事、右宵晩に御窺申上、翌日御城内に而昼之弁當何れ御入用に付、其積り致置べく事

塗弁當□紛等如何に付とり□

御人数に應ス 飯箱につめる事も在_レ之、御上者 小倉埜之かり箱に、中下は同まん

中三十入之かり箱、右遣イ切也

御出立之時亭主門口に而見送候事

御逗留中御殿様御他行又御帰り節とも亭主門口に而平伏ス

但御帰り之節は案内之宿へト足先江御帰り宿江知らせべく事

御大切之御宿に付、随分奉_二恐入_一不敬無_レ之様丁寧に相勤べく事

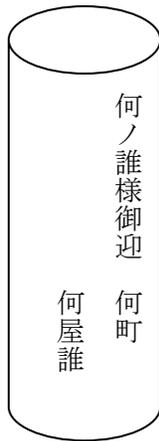
御宿門口江夜分なんと左に

夜分箱丁ちん

何之誰様 御宿

何ノ誰様御迎 何町

何屋誰



八軒家御迎之節左に

紙に而張置

何之誰様御迎 何町宿主
何屋誰

八軒家濱江御迎之節は支配町方廻状次第刻限無_二遅滞_一可_二罷出_一事

御殿様方八軒家江船着之時支配丁丁代方御挨拶申上、宿と亭主方御迎罷出居候趣支配町方申上、御船は方格宿近辺に相成方江着ケさせ申候

右御あかり場方宿主御案内可_二申上_一候

右之外相洩候分は其時に可_二申上_一事

御料理左之通

御宿御出立御膳 鱈三種 汁平

御上之分 菓子椀 焼物 鯛大鉢

見事成方

右同断 御膳 鱈三種 汁平

御中下之分 焼物 鯛中之分

平日御膳部 汁平 焼物

御上中下 但 御殿様斗猪口煮物

時と見合付ル

御宿御出立 御肴 硯ふた 五種

吸物

濱焼

但 御殿様により御酒 作り身

又は茶御好きものも したし物

在_レ之右は其時この
もやうにより御取
斗可_レ致

右之通りに御座候へ共、表向料理は一汁一菜之外馳走ケ間鋪義決而不_二相成_一被_二仰渡_一御座候。併先規方如_レ斯仕来在_レ之。何分御大切之御役に御越之御方と様ゆへ、難_レ有奉_レ存少_レ之饗應は亭主之存寄に而取斗も可_レ致歟

七月七日

残暑強御座候処、益々御精勤被_レ成_二御座_一珍重之御儀に奉_レ賀候。然は當年 御番衆様御宿御丁とに而御勤被_レ下、右に付御宿勤向其余巨細に銘と共方御丁別と御示談申度候へ共、何分数丁之義候へは追々日数も相廻り候儀に付、節前には候へ共、一應御御寄合申上度奉_レ存候。乍_二御吉分_一明後九日八ツ時より、北久宝寺町福屋宅御同役中御出席被_レ下候。右御案内申上度如_レ斯御座候。已上

但 乍_二自由_一其時分御案内は別段不_レ仕候間、右刻限に被_二仰合_一御衆、御用向御繰合無_二御不参_一御出席可_レ被_レ下御(ママ)不_二御座_一候而は、御相談之儀等御定不_レ仕候間、呉と御出席之義奉_二待入_一候。且又先日御宿絵圖いまた御差出無_レ之御丁とは、早と無_二間違_一御差出可_レ被_レ下候。已上

戊

嶋町一丁目 作蔵

七月七日

同 二丁目 可助

内両替町 専蔵

七月十日

覚

一大御番衆様御宿當年御方格に而御勤被_レ下候に付而者、昨年北組に而御宿相勤候町と熟談之趣左之通

一 例年御登御番衆様之内、上町に而五十騎様御宿仕候儀に有_レ之候。右人数之内年と少と宛御登増減有_レ之。則昨年は四十五頭様御登有_レ之。尤町数は六十式町へ御宿被_二仰付_一候處、御登り高者四十五頭様故四十五町に而相濟。依_レ之御宿不用に相成候町と方、相勤候町と江為_二余内_一不用町老丁と方三百目宛致_二余内_一。右割符之義者、御組頭、御宿三御奉行、御宿、御宿割御宿、其余平御宿へも夫と甲乙を以余内銀配當に相成。且又御登り御人数増

減之義は、御宿割様御着之上ならては相分り不_レ申候

一御宿割様御着之上惣御宿御見分相濟候上、御登り御人数相定り御船場へ御宿町と御迎に罷出候節、右御人数之内俄に御差支出来又者、御病氣等に而御跡登に成候殿様方も有_レ之。右之分は御宿へ御入無_レ之。左候は、御宿不用に相成候得共、此分は最早御宿割様御見分も相濟、勿論御宿札御渡被_レ遊御迎え迄罷出候上之御延着故、御宿不用とは乍_レ申、諸雜費等相掛り有_レ之儀に付、外不用宿同様之余内銀者難_二差出_一。乍_レ併御延着宿之義に付、右余内銀之半減差出、配當之儀者前同様之取計に相成候事

一但御延着之有無は俄之御差支故、前廣には相知不_レ申事

右余内銀等之儀は當年御勤町と之思召に而支配町方御相談之廉に者決而無_レ之。是は昨年右方格に而熟談相調候儀銘と共承りおよび候に付、乍_レ序御披露申上置候。右余内銀

一条之儀は御方格銀に而可_レ然御相談御取極可_レ被_二成下_一候

一當年御宿御勤被_レ下候に付而者、支配町并に差添町兩人御方格之内、御宿割様御宿之手近に而借屋かり請出張御用向相勤候得共、御方格之義者銘と共召連候人足は不案内之儀故、御見分御案内其外借人足衆兩人御方格之内方御差出被_レ下、銘と共出張候支配所へ御用中詰切候様、仕度尤人足衆支度等之義者獨弁之積御相談之上早と御取極被_レ下度候

但人足衆は當八月朔日比方入用に御座候。此段御承知之上早と御極置可_レ被_レ下候。

一尤此儀昨年も同様之事

一御宿割様御用中支配町差添町銘と共、御方格支配所へ出張中召連候人足之もの迄も支度、其外諸雜費者上町に而相賄ひ可_レ申候得共、御宿割様御逗留中支配所へ出張候儀は、都而御相組殿様方之御用向を、右支配所に而相勤候に付而は、右等之諸入用は御宿町と江乍_レ可_二相掛_一候訳を以、則昨年は御相組殿様方之御用向一件丈ケ之入用者、右方格へ相掛ケ取集候得共、當年之儀は右一件入用其余出張中諸雜費支配所入用に至迄、不_レ残上町に而相賄御方格江は御宿割方一件諸入用相掛ケ不_レ申間此段、御承知置可_レ被_レ下候。乍_レ併舟場組とは違ひ上町組之分は御宿町と不_レ残及_二焼失_一、例年御宿割御案内仕来り支配町も、御方格へ出張御用向相勤候に付而は、餘時に諸雜費等も相掛り可_レ申。船場組は御宿町と之内類焼致候不足丈ケ相増に相成、支配町も是迄通り高麗橋筋に而御宿割様御宿相勤候。左候は、振合等も替り不_レ申候得共、何分上町之儀は不_レ残出宿に相成、支配町も出張候義に付、船場組とは少と振合も相替り可_レ申候。此儀は御心得迄に申上置候。宜御承知置可_レ被_二成下_一候。以上

一戊七月

一上町御宿割支配町

嶋町老丁目

作蔵

同 式丁目

可助

内両替町

専蔵